

聖徒の道

1

1958年3月17日第3種郵便物認可（毎月1回1日発行）第9巻第1号 1965年1月1日発行

SEITO-NO-MICHI



聖徒の道

第91巻
第1号

1965年 1月号

目次

予言者のことば	2
伝道部長メッセージ	5
年頭の挨拶	10
伝道部	
沖繩地方部	
北海道地方部	
東地方部	
支部だより	17
質疑応答	22
伝道部扶助協会会長メッセージ	24
系図の道しるべ	26
扶助協会レッスン	27
文学としての聖書	44
伝道本部だより	49
英会話	52



オークランド神殿



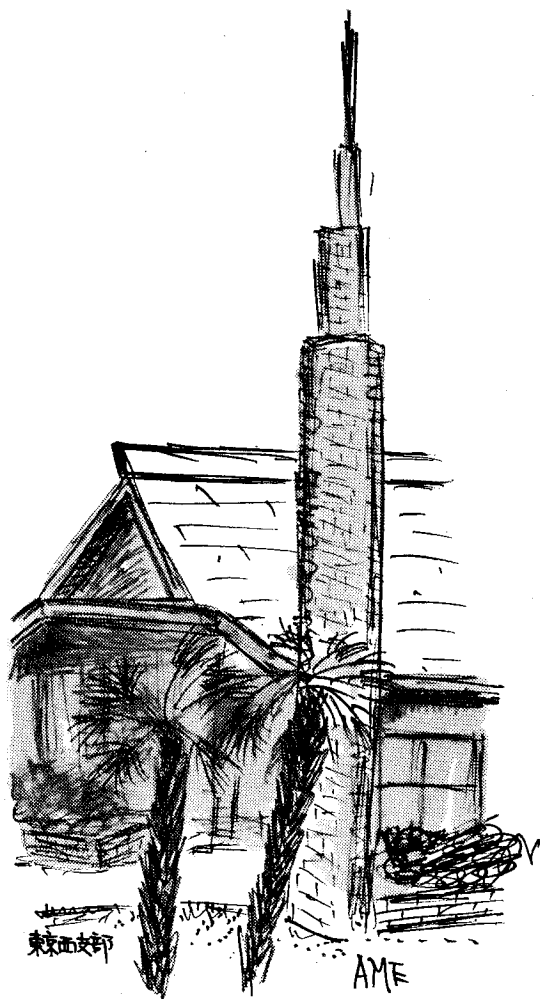
大管長 デビド・O・マッケイ

生けるキリスト——救い主に
たえず近くある事によって、
自分の心をいつも高めようと
心がけている人はまことに幸
いである。

予言者のことば

永遠の生命

大管長 デビッド・O・マツケイ



この新しい年を迎えるにあたり、われわれは何を求めているはずであるか。それは「永遠の生命」ではなからうか。では「永遠の生命」とは何か。人類の「救い主」は「永遠の生命」を次のように定義なさった。

「永遠の生命とは、唯一のまことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわれたイエス・キリストとを知ることであります」
(ヨハネによる福音書

十七〇三)。

「永遠の生命」！これ以上快よく楽しいものがほかにあろうか。これ以上貴いものがほかにあろうか。科学を好む青年たちよ、書物を読んで科学者から生命とは何であるかを探り出そうとしてみよ。科学者は、生命とは何であるか君たちに話すことはできない。しかし彼らは生命のあらわす効果を目にしてゐる。彼らは、われわれのまわりに生命があらわれてゐることを目にしてゐる。彼らは生命を、森の中にも空中にも、いたるところに見てゐる。生命の偉大なあらわれは、神の子孫である「人の子ら」の中にある、それであなたたちは「永遠に生きる」機会をもっている。

永遠の生命とは、神と神がつかわされたイエス・キリストとを知ることである。

どうして、われわれは神を知るのであるか。或る時ある律法学者がイエスにたずねて「先生、何をしたら永遠の生命が受けられましようか」と言った。「イエスが彼に言われた『律法にはなんと書いてあるか。あなたはどうか読むか』」。

「彼は答えて言った『心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思をつくして、主なるあなたの神を愛せよ』また『自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ』とあります」。

「彼に言われた『あなたの答は正しい。その通り行いなさい。そうすればいのちが得られる』」(ルカによる福音書十〇二十五—二十八参照)。

また別のときに「救い主」は一団の人々にどうして知ることができのかを話して聞かせなさった「わたしの教は、わたし自

身の教ではなく、わたしをつかわされたかたの教である」(ヨハネによる福音書七〇十六参照)。

青年(および青年のもっている貴重な見方をいつも持っているようにする人々)よ。神と神がつかわされたイエス・キリストを知りたいなら次のことばに耳を傾けたまえ。

「わたしの教はわたし自身の教ではなく、わたしをつかわされたかたの教である」。

「神のみこころを行なおうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう」(ヨハネによる福音書七〇十六—十七参照)。

ここにあなたがたの求める答がある。

しかし、そのあとから、神のみこころとは何かという疑問が起る。それはあの律法学者が次のように言つて答えた。「心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして主なるあなたの神を愛せよ」(ルカによる福音書十〇二十七参照)。

しかし五旬節(ペンテコステ)の日に、キリストの使徒のかしら(ペテロ)はもっと明確に答えた。そのとき三千人の人々は強く心を刺され「兄弟たちよ、わたしたちは、どうしたらよいのでしようか」と言った。するとペテロが答えた「悔い改めなさい。そして、あなたがたひとりごとりが罪のゆるしを得るために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊の賜を受けるであろう」。

「この約束は、われらの主なる神の召しにあずかるすべての者、すなわちあなたがたと、あなたがたの子らと、遠くの者一

同とに与えられているものである」(使徒行伝二〇三十七—三十九参照)。

後に、これと同じ使徒のかしら(すなわちペテロ)は、悔改めとバプテスマと、どうして神権が彼らに与えられたか、またどうして彼らが「神の性質にあずかる者」となったかについて語り、特殊の美德を数々つけ加えた(ペテロの第二の手紙一〇三—四参照)。もしあなたがたが、その点にまで達することができるなら、イエスはキリストであってこれは神のみわざであることを知るにちがいない。

それからペテロはさらに次のように言った。

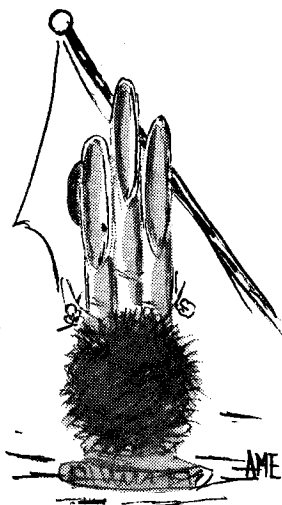
「それだから、あなたがたは、力の限りをつくしてあなたがたの信仰に徳を加え、徳に知識を、知識に節制を、節制に忍耐を、忍耐に信心を、信心に兄弟愛を、兄弟愛に愛を加えなさい」。

「これらのものがあなたに備わって、いよいよ豊になるならば、わたしたちの主イエス・キリストを知る知識について、あなたがたは、怠る者、実を結ばない者となることはないであろう」(ペテロの第二の手紙一〇五—八参照)。すなわち別のことばであらわすならば、キリストとその父なる神とを知ることは「永遠の生命」である。

わたくしたちは一人のこらず、その真理を知って永遠に生きることが出来る。それであるから、教会内におけるあなたの任務について心をわずらわすな。教会の中で活潑に働らきをつづけているあなたがたよ。あなたがたの働らきはすばらしい働らきである。それは神のみわざである。いつも神に近づけ、そう

すれば神は今年中のみならず常にあなたを導びきたもうにちがいない。

賀 正



昭和四十年元旦

伝道部長 ダウエン・N・アンダーセン



千九百六十四年の十一月中に美しいオークランド神殿が献堂されました。ヒンクレー伝道部監督は献堂式の集りに神のみたまが豊に注がれ、天国が目あたりにあったとその時の有様を言っておいになります。神殿は生きている人々と此世を去った人々とつながれる所であります。神殿に参入して聖なる儀式を受ける資格のある会員たちは、神殿によって（神の国の）まことの姿を見る力と理解とが増すのであります。そなえをして神殿に参入する人々には最高の喜びと感激とがあると共に、また神聖な責任も生ずるのであります。わたくしは今、オークランド神殿の献堂式でマックレイ大管長がなされたお話を引用したいと思います。そのお話の中でマックレイ大管長は神殿に参入する人々の責任を指摘しておいでになります。それは本年の夏にハワイの神殿に参入する日本と沖繩の多くの立派な会員がそなえをするために役立つにちがいありません。

「神殿に参入する人々の責任」

千九百六十四年十一月十七日、午前九時三十分、オークランド神殿献堂式の最初の集会で行なわれたデビッド・O・マックレイ大管長のお話

「これはまことに靈感を与える時間でありました。たしかに一人一人の心は、この神聖な殿堂の中に席を得て、天にまします御方の側近くに居ると感ずる機会を得たことを感謝し満足に思う念に満されていると思います。わたくしたちはひそかに心を傾けて祈り全能なる神とまじわる時のほか、どんな時よりもこのような時にいつも、神とその愛したもう御子

の御側近くに居るということを一番よく感じます。

今やわたくしたちが心を一つにして、この神聖な宮を天の父なる神に献堂すべき時であります。今やわたくしは献堂の祈りをささげる前に少々お話をしたいと強く心に感じて居ります。

およそ神殿は、人々がその結ぶ誓約を通して祝福を受けるために建てられるのであります。神殿に参入する者は一人のこらず或る誓約をいたします、すなわち或る責任をその身にひき受けるのであります。

神殿に参入する人々が遂行する一つの大きな目的は、結婚という神聖なきづなで夫と妻とが結び固められることであります。その目的は夫と妻とが真に相愛しているという事実にもとずいて居ります。すなわち、神殿の聖壇の前に来る男女は、たしかに互いの心に愛をもっていないではありません。愛していない者と永遠に結ばれるということは恐ろしいことでしょう。しかしあなたが愛している人と此世から永遠にわたって結び固められるということは、すばらしいことであります。

わたくしたちは、愛が人間の心が持つ最も神聖な性質であることをいつも忘れないようにしましょう。神御自身が愛であります。わたくしたちの心はあの永遠の家庭で本当に神と共に一つでありました。それでありますから、一組の男女が神殿の聖壇にひざまずいてあの永遠に結び固められる特権と祝福をいただくときには、此世から永遠にわたって神権の聖なる機能によって今結ばれる二つの心を、あの愛が結んでいるということを確信すべきであります。これと共に、愛ははぐくまねばならぬことを理解しなくてはなりません。そうでなければ、あのきづなも、あの結び固めの力も、あの誓

約も永遠につずかないであります。愛ははぐくまねばなりません、日毎の食を与えないと肉体が飢え死をする通りに、愛も飢え死をすることがあるのであります。これに対してだれも大きな抗議をすることができません。(すなわち)あの愛をいつも生き生きとさせておくことができないからであります。神殿の聖壇の前で誓約をした人々が引き受けた或る責任があります。この責任を引き受けた人々は、神殿を出たあとでその責任を事実にあらわさなくてはなりません。その一つは「親切」であります。神の宮を出た夫婦が住んでいる家庭に「不親切」があつてはなりません。

パウロが書いた手紙の一つに、全キリスト教国の人々が「愛の讃歌」と言っているところがありますが、その最初の句に「愛は寛容であり、愛は情深い」と言つてあります。「寛容」ということばの中には忍耐と寛大と思ひやりという意味が含まれています。わたくしたちは、末日聖徒イエス・キリスト教会の中に、夫と妻とが互いに愛している家庭を多数思ひ浮べて見ることが出来ます。それは死によって離されない固い愛がそこにあるからであります。愛はまことに寛容であり、いつも親切であり優しくあります。

親切は常に愛をはぐくみ、また愛は相互の行いであるべきことを教会の兄弟たちはいつも忘れないようにし、また教会の姉妹たちはそれを悟らなくてはなりません。自分の妻のことを思い、とくに考えてやっている思ひやりのある夫があると、自分の夫のことを思いやる妻があります。パウロは同じ手紙の中で、「愛は自分の利益を求めない」で他人の福祉とさいわいを求めると言っています。また同じ手紙の別のところで「愛はすべてを信じ」と言っています。もしもその愛を日に月に年毎にまた一生を通じてはぐくむならば、夫

は妻のほかだれにも心を向けずにちがいません。それは神権者の結び固める権能に信頼をして、どのような方法でも注意を引かれたり欲望にふけったりすることがないからであります。それは愛が「すべてを信じ」て信頼するからであり、また夫が妻に妻が夫に持っている信頼に根拠と理由があるにちがいないからであります。

モルモン教のおもな本領は、宗教を日常生活で実践することであります。それがすなわちあなたがたがた教会員が、この神殿という大建築を建てることに参加をして実践されたことであり、また現在その場で幸福と平和とを育てる要素を教会の会員の家庭へもたらしつつ教会がこれまで行ってきたことであり、またこれからもして行くにちがいないことであります。教会の若人たちには、この神殿の中にある聖壇へ彼らをつれて来るきずな、すなわち愛を養い、榮養を与え、永続させるような配偶者を選ぶように教えずにはなりません。（實際靈は死後も生きているのですが）もしあなたの霊が死後も生きているならば、愛という性質も死後つづいて存在するのであります。それと同じく、同情敬虔などあなたのもっているほかの美德も死後につづいて存在するのであります。

そのほかの責任とは何でありましょうか。それは「永遠の生命」に関する教え——霊の不死不滅に関する教えであります。

使徒パウロはコリント人に「そうでないとすれば、死者のためにバプテスマを受ける人々は、なぜそれをするのだろうか。もし死者が全くよみがえらないとすれば、なぜ人々が死者のためにバプテスマを受けるのか」とたずねました（コリント人への第一の手紙十五〇二十九参照）。このように永遠の（真理を含む）質問が二千年前になされたのに、末日聖徒イエス・キリスト教会のほかに、これに對

する解答をしている教会は今日一つもありません。牧師たちの半分はこれに對する、答えをしようとして、それに答える記事を書いていますが、パウロの問に對する答えは、あなたがたが建てたこの神殿の中で見られます。

或る中華民国の学生が、アメリカ合衆国の一流の大学に學んで卒業をしました。そして帰国の途中、太平洋をわたっている船の上で或るプロテスタント教会の牧師と会話をしました。その牧師は当然イエス・キリストの御名によつてのみ人類は救われるのであり、それがために、わたくしは十字架におかりになったイエス・キリスト（の福音）を宣べ伝えるために、中華民国の人々のところへ行くのですと言いました。この中華民国の学生は、中華の人々にとってひじょうに現実である父母に對する愛と家族關係とが骨の髄までしみ通っていましたから、この牧師がイエス・キリストによつてのみ人類は救いを受けるといふのを聞いて言いました。「それなら、わたくしの先祖はどうなるでしょう」と。これは全世界のだれでもたずねるはずの質問です。すると牧師が答えて言いました「あなたの先祖は滅びたのです（永遠に救われません）」と。これを聞いてその学生は言いました「わたしには、そのような不公平な宗教は何の關係もありません」。そこでこの学生は次のような疑問に直面しました。「イエス・キリストの名前を聞かずに比世を去った無数の人々が、イエス・キリストの名前を聞く機会を持った自分たちと異つた救われ方をするのか、それとも神は人をかたよって見る不公平な方であるのか」。

愛は生命と同様に永遠であるので、救いの原則は生命と同じく永遠であつて、救いの原則は今日あなたがたわたくしに適用されると同

様に、この世に肉身を持って生れた最初の人にも適用されます。それが正しいのであります。そして、無数の人々がバプテスマを受けずに此世を去って居り（バプテスマとその他すべての原則は肉体に關するものであるから）、あなたがたやわたくしがバプテスマの門を通して来なければならなかったように、これらの人々もまた同じ福音を聞いてバプテスマの門を通らなければならないと思うのであります。それは天にまします父なる神にとって出来ないことであります。それから、この神殿の儀式を行なうのは、それを為しとげる一つの方法、すなわち救いの門を開ける一つの方法であります。

それでありますから、あなたもわたしも、この神の宮に入る者は（靈界で）待っている人々のために門をあけるために、各自の先祖の系図を明らかにするようだけのことをする機会と責任とを持っていますのであります。

イエスは「箱舟が造られていた」時、ノアの時代に（神のみことばに）不従順であつたため「靈界のひとや」に入れられていた人々の靈に福音を宣べに行かれました。それは全く単純でわかりやすいことでありますから、聖句のわかる人々はだれにもわかることでもあります。すなわち大昔、大洪水の前ノアの時代に（神のことばに）不従順であつた人々は男も女もみな死にました（そして靈界に行き、不従順であつたためにひとやの中に入れられました）。イエスは（十字架にかけられて）その体が三日間墓の中に置かれて居たうちに、これらの靈のところへ行つて福音を宣べ伝えてこれらの靈に門を開け、またあなたとわたしは今宣べ伝えていると同じ福音をこれらの靈に聞かせるために、神権を帯びた人々をお遣わしになりました。その中にある原則は何とすぐれたものではありませんか。なぜ

なら、これらの靈たちは何千年という長い間（死なずに）生きていたからであります。先週、先年さては十年前に此世を去つたあなたの最も愛する人々、あなたの父も母もあなたの子供も、あなたの兄弟も、みな現に生きているのです！

靈の不死不滅！ それは教会員でない詩人たちの好むテーマであり、またほかの人たちが文学全体にわたつて好んで用いるテーマであります。次のことばを聞いていただきたい。

「語りたもうな、嘆きのしらべもて
命はうつろの夢なり、と。

靈は死せる様にて眠るにあらず、
眠ると見えて生々と活動すれば」。

「命は現実なり！

人生は嚴肅なる事実なり。

汝は塵なれば、塵に返れとは

靈につきて言われしことばにあらず」。

ロングフェロー「生の讃歌」より

キリストのみことばは、この永遠の真理を強調しています。すなわち「わたしの父の家にはすまいがたくさんにある。もしなかったならば、わたしはそう言っておいたであらう。あなたがたのために場所を用意しに行くのだから。……わたしの居るところにあなたがたも居らせるためである」（ヨハネによる福音書十四〇二—三参照）。このオーランド神殿地方に住んでいる会員がたが、この聖なる神殿の建築に参加して為された業績はまことにすばらしいものではありませんか。この会員がたは自己をぎせいにし、崇高な生活を送ることによって、また他人のために自己をぎせいにすることができ

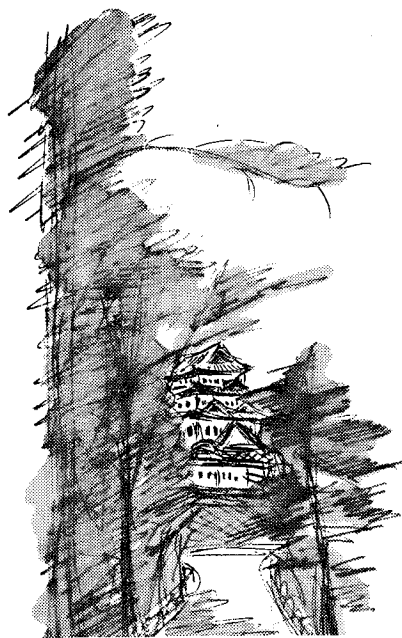
る霊的な面まで自己を高めることによって、神殿の建築を完遂されました。わたくしは心の底から、あなたがたの業績に対して神が祝福をたまわるように祈ります。

さて今朝、わたくしは次のような考えをあなたがたに託したいと思います。今、神殿からめぐみを受ける人々は、神殿にひざまずいて各々の男女が夫となり妻となるときに責任を引き受けます。さらにまたこの責任は、世の人々に死がないと言ふことにまで及びます。わたくしたちが死んでも本当に生きているということは、わたくしたちの心を打ちます。死は御父の家の一つから別の家、もっとすばらしいほかの家へ入ることにすぎないからであります。

神があなたがたを祝福したまわんことを！ 神よ、イエス・キリストの回復された福音の深い意義と、広大さと、永遠なる性格とを理解するようわれわれを助けたまえ！ イエス・キリストの御名により祈り奉る。

今、わが主、救い主イエス・キリストの御わざの栄えのため、われらの主にあなたがたの努力とあなたがたのつくり出したものをささげるに当り、あなたがたと全教会員とを代表するのはわたくしの特権であります。

あなたがたの頭を垂れてわたくしたちに加わって下さいますなら、これから献堂の祈りを捧げます」。



年頭の挨拶



目標を覚えて一意邁進しよう

渡 辺 正 雄（伝道部系図委員会）

世紀のオリンピックを無事に終え、日本は世界一のオリンピック国である。と
ブランドイジ会長より称讃の言葉を受けて今や世界平和の先駆者となった日本は
ここに、輝かしい一九六五年の元旦を迎えました。遙か大平洋の水平線に昇った
朝日は燦然たる光を霊峰富士に注いで居ります。未日に回復された福音が大平洋
を渡ってこの地に植えられてから六十五年目、神の僕は大洋の波を越えて続々と
遣わされ、今やこの地に於てシオンに集わんとする聖徒の数は一人になんなん
とし、首都東京には既に神の宮、白い三柱の塔が道行く人の目を惹き、伝道本部
の新館も落成してその威容を輝かし、引続き神の宮は、日夜献身する建築宣教師
の手によって東に西に北に南にたくましい建築の響きを轟かせて居ります。一
方前年度に於て強力に推進されたアロン神権プログラム、フェロシップングに
よって各支部、地方部共に躍進し、ワード部、ステーク部への体勢を着々と備え
て来て居ります。

本年は愈々本伝道部最初の神殿訪問がこの夏に実施されます、表参道のステーク部センターも本年は着手されると聞いて居ります。

我々一億の同胞及び数千億の先祖が日夜、待ち焦がれている神殿の建設も一日と近ずいて来るような気がします。

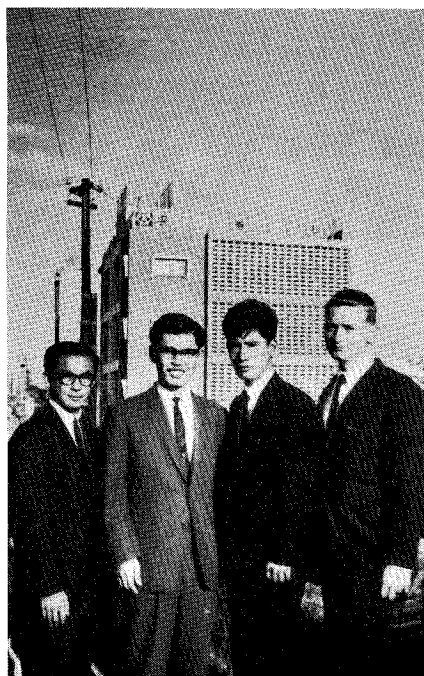
愛する兄弟姉妹の皆さん、年頭に当り、本年度の目標をよく覚えて本年一ぱい神の王国建設に向って共に手をとって一意邁進しようではありませんか。

一九六五年度目標

- 一、神権（定員会グループ活動の強化）
- 二、指導性（永遠の結婚の資格）の養成
- 三、組織（支部、地方部）の強化
- 四、建築計画の推進（百円以上献金）
- 五、改宗者獲得の促進
- 六、家族の改宗



ヒンクレー伝道部監督御夫妻
 アンダーセン伝道部長
 山田第一副伝道部長
 渡辺第二副伝道部長
 柳田伝道部扶助協会会長



沖繩地方部長会

地方部長 長嶺 顕正
 副地方部長 津嘉山 佐
 書記 小林 長老
 会計 ラースン 長老



← 沖縄地方部
扶助協会会長会

沖縄地方部

MIA 会長会

西 銘 務
大 城 敏 子



那覇支部支部長会

支部長 大城朝次郎

書 記 当真建次

第二副支部長 喜 村 正

第一副支部長 新垣朝儀

(右から左へ)



普天間支部支部長会

支部長(右)

スミス長老

第二副支部長(中)

比 嘉 盛 篤

書 記(左)

ライマン長老



北海道地方部 地方部長 柳 沢 俊 雄 札幌市白石町南郷通6北47

第一副地方部長 松 下 泰 洋 〃 琴似町発寒469の2

第二副 〃 湯 沼 誠 二 札幌郡手稲町字東63

書記 児 島 克 己 札幌市南5条西18丁目

評 議 員 福 原 俊 明 〃 琴似町発寒415

〃 藤 田 秀 光 〃 琴似町発寒中央364

札幌支部 支部長 鮫 島 邦 彦 札幌市円山北町401日冷アパート

第一副支部長 西 島 吉 春 〃 南18条西16丁目 医大職員寮

第二副 〃 児 島 吉 彦 札幌郡手稲町西野36

書記 吉 田 英 札幌市北20条西15丁目

小樽支部 支部長 増 田 輝 敏 小樽市若竹町番外地

第二副支部長 小 林 毅 〃 汐見台町9

書記 若 松 道 範 〃 入舟町7の41 笹島方

旭川支部 支部長 安 田 琢 三 旭川市東3条4丁目

第一副支部長 太田原 雅 稔 〃 東町3丁目

第二副 〃 近 藤 亘 〃 あけぼの1条6丁目

書記補助 山 田 次 美 〃 春光町6区番外地

室蘭支部 支部長 川 崎 英 三 室蘭市母恋南町11

第一副 〃 川 上 輝 男 〃 大沢町2の232

第二副 〃 三 浦 忠 雄 〃 西小路町26

東中央地方部

あけまして

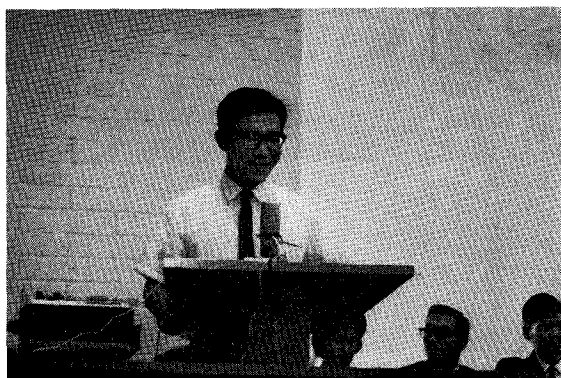
おめでとございます。

東地方部長 今井 一 男



東地方部第一副地方部長

田 中 健 治



東地方部第二副地方部長

小 室 敬

伝道部役員

伝道部長
第一副伝道部長
第二〃
書記
第一長老定員会長
第五〃
系図委員会
扶助協会
日曜学校会長
YM・MIA会長
YW・〃

ダウエン・エヌ・アンダーセン

山田五郎
渡辺驢
リ・ス・ミ
山田義郎
相良健一
渡部正雄
柳田聰子
上野道男
佐藤襄二
佐藤栄子

東中央地方部役員

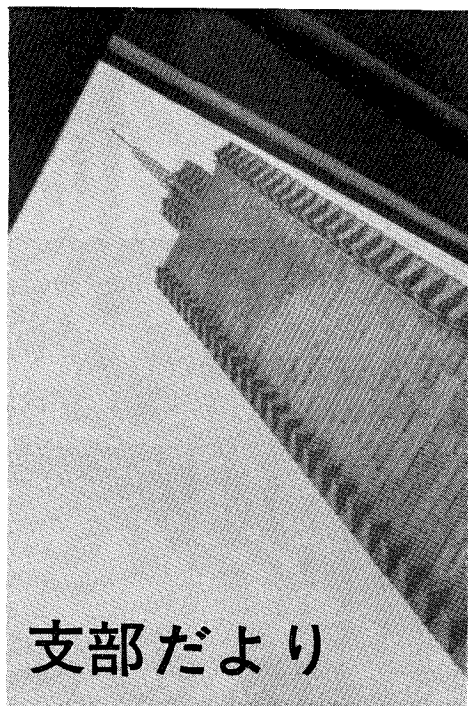
地方部長
第一副地方部長
第二〃
書記
評議員
〃
〃
〃
〃
〃
扶助協会
第一副会長
第二〃
書記
日曜学校会長
子供日曜学校会長
MIA会長
副会長
指導者
音楽委員
〃
フェロシップ委員
〃
〃
〃

今田小平
井中室野藤中羽東野垣玉木古垣宮玉田東田川藤垣羽田沼林
一健
勝竜英三幹道高栄
千数昭栄淳幹邦紀泰聖三
男治敬也猪男吾夫男義治明代子子治子夫男子生子吾真一生
修義

支部役員

[illegible]

兵誠決	老敏夫男	男康左偉亘	紹男夷之男	雄己	次勉仁弥光	雄郎	美喜隆	護人夫	郎	保夫	明	老
周暢	尚武和泰	邦孝十烈雅	孝久正稔	益克	邦康	靖榮	信昭正	中隆	吾	富順	長	
山石沢	正村田辺	田浦村島山	野村橋野藤	田本	井藤倉井原	山代	本原村	川橋嵐	木	谷部田野	沢	
丸白深	渡米土渡	島松木松内	細森高中齋	川杉	岩齋板福小	新八	萩植北	松大五	鈴	紙阿中天	塩	



支部だより

旭川支部

全国の兄弟姉妹、今日は。旭川支部からお便りします。今月も旭川支部では楽しい事がいっぱいありました。まず最初にハロウィンパーティーの事についてお知らせします。

十月二十九日木曜日、旭川支部では教会堂に於てハロウィンパーティーが開かれまして、MIAの役員の方々が前日夜遅く迄かけて準備したうす暗いホールで開会され、そこで小さなゲームをしている内に、一人ずつ

はいけません。リングも大きいですからなかなか口に入りません。兄弟はもちろん普段はおしとやかな姉妹も大きな口を開けて大奮闘。笑いの渦の中に向いの部屋からキヌを裂くような悲鳴。きつと姉妹がおばけにいじめられているのでしょう。普段は決して大きな声を出さないつつましい姉妹を、これほどまでに驚かすものの正体は？ ゆで玉子にコンニャクに玉うどんです。本当にいじ悪なおばけだと思いませんか。けれども中にはこれらものものに全く無神経で、かえっておばけを質

目隠しをしておばけ屋敷である他の部屋を通ります。

一番興味のあったゲームは、上から細いひもでリングをつるし。パン食い競争ではなくリングかじり競争です。もちろん手を使って

問ぜめにする、おばけ顔負けのすえおそろしい兄弟もいて、おばけ役も拍子が抜けてしまったという一こまもありました。

もう一つ旭川には、とてもお目出たい事があります。第二副支部長の近藤兄弟ご夫婦にベビーが誕生した事です。名前は慶太君。れっきとした神権者の卵です。このしあわせな家族には初めてのベビーなので、新米パパママも親ばかりは一人前のようです。（これはないしょです）けれども本当にすばらしいモルモンの家庭に生まれた慶太君も、きつと神の恵みを受けて立派に成長する事と思います。又もう一ヶ月位経つと第一副支部長の太田原兄弟姉妹にもベビーが（多分双子）誕生するはずですよ。そうなると一年後に本当にぎやかな旭川支部になると思います。というのは、支部長、安田兄弟ご令息の基君（現在一才）を先頭に慶太君、又太田原兄弟のご令息又はご令嬢が加ってベビーギャングの一団が出来るはずだからです。けれどもこれらの現象は旭川支部発展の証拠だと思います。各支部の皆さん、たのもししい旭川支部だと思いませんか？

小樽支部

十月の二十三日、突然雪が降って、それから二・三日寒い日が続きましたが、今はもう各家庭にも、教会にもストーブが取りつけられ部屋の中は暖かいです。でも一歩外に出ると、オーバーに長靴姿が目につきまします。南の方の方には想像もつかないかも知れませんが。

支部の玄関にあるもみじが濡れた石段の上に美しく散りばめられ、しばし足を止める事もあります。ハローインパーティも無事に終り十一月三日は、会堂のペンキ塗りをしました。クリーム色に塗られた会堂は、これから寒さの厳しくなるこの地方ですが、ほのかな暖かみをそえてくれます。そして兄弟達の熱意も会堂一杯に満ちております。

この頃は集会が終ると、ストーブの廻りは人々を引きつけるとみえて、みんなの足がすぐそちらに向いてしまします。十月の終りに安息日の時間割りがかみなおされ、落着いて計画会や指導者会が持てるようになりまして。これからプログラムの多くなる季節、新しい人々を迎える為に大いに張切ろうとモルモンの胸の内にかくし切れないファイトがみ

られるので、各組織の活発な働きを期待して次の機会までサヨナラ……。

東京西支部

みなさんお元気ですか。

西支部はみんなはりきっていますよ。(そうそう先月号で支部長さんのハッスルぶりをお知らせしましたね。……なにもまだよいでないってそれは残念。早速十二月号を買って読んでよ)。

今度新たに西支部の第二副支部長が任命されました。木村十左兄弟です。「十左」ちゃんと聞いたことのないめずらしい名前ですね。

彼はその名の通り、西支部にとっては貴重な存在なんです。非常に謙遜な方でまた努力家でもあります。一時教会にみえなかったんですが、今年のはじめに再び教会に集われるようになりまして。そして自らの手で奥さんと子供さんにバプテスマをほどこされ、まさにモルモン一家です。彼が支部長会にはいられたので、支部長の島田兄弟、松浦兄弟、それに当の木村兄弟の支部長会になりました。

それから今まで支部長会の第二副支部長を勤められた鄭豊雄兄弟に感謝しなければなり

ませんね。彼は責任感が強く、西支部にあっては大きな役割をはたしてくれました。彼が再び支部にあって働いてくれることを願う次第です。

「縁の下のもち」とはよくいわれることですが支部の会計書記をされていた平末佳邦兄弟にも支部会員一同、感謝しなければなりません。——ここで会計書記、統計書記の責任をはたされている(西支部では松島烈偉兄弟と内山雅亘兄弟)兄弟の仕事を理解してあげようではありませんか。——

これらの方々への理解と協力があるから西支部も立派になっていくんです。(もともとと立派になれるんですよ)

さて念垣郷太郎兄弟と峯子姉妹の結婚式が気持よく晴あがった空のもとで十一月十四日に西支部で行なわれました。めでたく峯ちゃんはお嫁さんになったわけですね。式後支部の兄弟姉妹や会社・学校の方々の見送りを受けた今密月旅行中……

建築宣教師誕生——西支部では日本に建築計画がはじまると同時にすばらしい兄弟がこの神の計画に参加しました。名前を挙げると当時第一副支部長であった石川善次郎兄弟(知ってるでしょ)会計書記であった松島烈

偉兄弟（このたび支部の会計書記をして返り
咲きました）南沢輝幸兄弟、斎藤曉兄弟（十二
月号に兄弟の証詞が載ってます）石坂晃一兄
弟（今年の五月に宣教師として召された好男
子）と一つの支部からこんなに宣教師が出る
なんて西支部として嬉しいことです。

そのよき伝統を受け継いで糸数哲雄兄弟も
近く建築宣教師に出られます。彼は考えはじ
めると夜の一時―二時は朝めし前で四時頃ま
でも起きているとか（ちよっとモルモンの方
寝早起きに反するかな）……物理学で将来身
をたてようと考えている哲学青年でもある。
彼の今後を期待しましょう。この便りが出る
頃は建築宣教師として働いているかもしれま
せん。ではお元気で。

三宮支部

全国的兄弟、姉妹、お元気ですか。当支部
では先日芸術の秋にちなんで、次の行事が行
なわれましたのでお便りします。

十月二十九日（木）この日はMIAの行事
の中でも楽しいハロウィン・パーティーでし
た。全ての人は、仮装して出席すること!!
と、いうことになっていたので、色とりどりの
仮装で現れました。屋外劇場のような庭で

アラビアのロレンス、その妻、又その弟ロメ
エットとジュリオ（？）森蘭丸、ミス神戸とそ
のボーイフレンド。ヨーロッパ中世の王子と
貴婦人、ノートルダム座のせむし男、明治時代
の女学生、ギリシアの坐女、中国娘、ボティ
腹の田舎のおっさん、アメリカのこじき、そ
の他色々、その中から五組の優秀なる者を選



びMIAから賞品が出ました。その賞品とは
水の中りんごを入れ、手をつかわないで口
だけでりんごをとることです。入賞した人は
大奮闘でした。その後、仮装のままで楽しく
ダンスをしました。又、宣教師達は自分達の
部屋を苦心して、お化け屋敷に改造して、
MIAに提供して下さいました。このお化け
屋敷は、動物園や遊園地に有る魔法の城より
も、もっと無気味でした。

仮装パーティーは当支部にとっては、はじめ
ての試みでしたが大成功に終り、私達の心に
印象深い想い出として残ることと思います。
ますます深くなった秋を、このような催しで
いっそう深いものに出来たことは、ひとえに
会長会のファイトある努力とおもひ又、その
運営に当って、神様の大いなる祝福と御導き
があったことを私達一同強く感じています。
それでは皆様の支部も、ますます御発展され
神の御国建設のために努力されますことを祈
りながら……

聖徒の道委員記

京 都 支 部

京都支部にユウレイ現わる!!

人間には肉体滅びても靈魂があり、それが我々に会いに来るのだろうか。それにしてもまともに挨拶をし、過去と同じように親しく話をしてもよさそうなものに、一人の時に暗



闇で、それも突然に、しかも我々にとって最大の恐怖心を抱かせる様な格好で目前に現われるとはあまりにもひどいよ。

まわりはしーんと静まりかえり虫の声さえ聞えない、聞えるのは耳なりと自分の足音だけである。風のそよぐ音がしたかと思うと突然真新しい血をポトン……ポトン……と落しつづ人の頭だけがふりかかっていた。(キヤー) 前にも後にも誰もいない、何の武器もない、突然に走れようか。この何十分の一秒の一瞬人間の脳裡はどんな働きをするだろうか、腰をぬかすか、木に抱きつくか、時にはユウレイに抱きつく人がいるかも知れぬ。ある姉妹は言っていた。「足の先、指の先、全身の血が頭の天辺に一瞬のうちに集るのを感じた」と。足が震えながら、ゆっくりと全神経を周囲に集中して真暗なところを進むと頬にひやつとした、ぬるつとした何かナメクジかそれ以下の軟体動物が自分の顔を滅ぼしに來たに違いないと思う様な感触があった。今度はユウレイの本体をつかまえようと自分の頬に手をやった。ああ、本当の軟体動物だノ、と思い一瞬手を離し見逃がしてしまった。それがコンニャクと知った時は後の祭り、コンニャクと知っていたら今夜食ってい

たろうに浅念であった。

このユウレイ陣は十月二十九日MIAでのハロインパーティーの一コマであります。他のユウレイも多く度肝をぬかれる場面が度々あり、すばらしいものでした。メダルは確実と自信がもてます。京都支部のMIAは鳥居兄弟を中心に一致協力して会員相互互達のため尽力しています。

十一月十四日午後二時司会片山京都支部長、司式森村東京北支部第一副支部長により神崎兄弟と藤岡姉妹との結婚式が行なわれました。東京北支部で芽生え、育ち、京都支部でパツと咲いたこの花、情熱の花。花と花は寄り合い語り合い「まいった」の一言で花と花は結び合わされ実った。花と花に蜜蜂が寄りそいお祝いの言葉と握手を求め、花がいつまでもいつまでも咲きはこり、幸せでありますように、又蜜蜂のためにも常に満開であるように祈っていた。

花と花との誓約式を終え披露宴では北支部高橋兄弟の司会で花と花への賛辞がございました。事実このすばらしい花と花とに蜜蜂ならずとも嫌いな人はいるまい。京都支部のハワイアンバンドが演奏していると花と花は手と手を取り合い、肩と肩を並べて踊り、右に

左に移動し、この時は最高とばかり振れ動いていた。

かくして花と花は永遠に情熱の花として咲きほころぼうと出発したのであります。

神崎兄弟姉妹おめでとうございます。いつでも今日という日を忘れないで頑張ってください。

次に京都支部における最新の組織の役員、教師を紹介致します。(十一月二十九日)

(支部長会) 支部長片山富夫、第一副岡本亮第二副神崎良太郎、会計書記高良慎清、統計書記片山博、(アロン神権成人) 主事岡本亮會長宇野博、副増田武彦、書記河崎洋、(アロン神権青少年) 會長谷口修、副増田博文、書記加藤明雄、(扶助協会) 會長長棟富美子第一副鎌田裕子、第二副片山満江、書記山口敦子、神学佐々木真樹子、仕事会神崎和子、家庭訪問丸山克子、文学山口敦子、社会科学

支 部

的場好子、(日曜学校) 會長中村晴己、第一副高野将、第二副金丸強、書記和田佳子、オルガニスト植村正子、指揮今川愛子、教師高良慎清、神崎良太郎、住友妙子、(子供日曜学校) 責任者今川愛子、教師鎌田裕子、書記富原光江、(MIA) YM 會長島居定幸、副長井恒彦、YW 會長野阪真代、副未定、書記進藤達

実、音楽教師長井恒彦、演説飯島靖二、美術岡本庄平、ダンス山口敦子、オルガニスト未定、指揮長井恒彦(フェロシップ會長中村幸二、副的場好子、書記長谷川清子、委員岩崎要子、野阪真代、長棟富美子、増田博文、谷口修、佃晶治、宇野博、高野将、金丸強、飯島靖二、(聖徒の道) 委員長長谷川靖子、増田博文、宇野博、(図書委員) 増田武彦以上最後に亀谷テル子、小山美恵姉妹が、京都支部に姉妹の会員が少ないのを嘆き、敢然と宣教師(パートタイム)の仕事を引き受けられ、今後の我支部に姉妹が兄弟を凌駕せんものとファイト満々であることをお知らせして、お便りを終ります。

(31 ページより)

くることなかるべし。と言う表現は滅亡の子の受ける罰(五十七課)に連結して居るからであります。神権からそれたすべての人が必ず滅亡の子とならねばならないということではないことを知るべきであります。誠命を無視しその召しを発揚出来なかったをして光と知恵を受けなかった不忠実な神権者でも滅亡の子のような悪の深い淵に落ちないことも可能なのであります。ですから、赦しを失ったと云うことは将来神権を拒否されるという重大な罰を必然的に伴うものであります。神権なくしては誰も最高の日の栄に入ることは出来ないであります。

本教課は教会のすべての会員に神権の重要性を強調すべきであります。教会内では如何なる人でも神の僕たちによって割当てられた責任を軽視すべきではありません。

考察の為の質問

一、神権の系統。とは如何なる意味ですかそして誰がこの脈上で最初にこの権能を受けたのですか。

二、誰が神権の誓詞と誓約を受けるのですか。そしてそれを破った時の罰は何ですか。

三、神権の召しを発揚するとは如何なる意味ですか。明確に。

答 応 疑 質

バプテスマのヨハネの神権について

解 答 者

ジヨセフ・ワイールディング・スミス長老
十二使徒会会長



質 問

「わたくしたちの定員会の集りで「だれがバプテスマのヨハネにアロン神権をさずけたか」という質問が出ました。わたくしたちはこの質問についてしらべ、バプテスマのヨハネは天使によって神権を授けられたことを知りました。ヨハネの父が祭司の職をもっていたことも知りました。祭司はアロン神権を授け、またその中にある執事、教師、祭司の職に按手聖任する権能がありますから、ヨハネの父は執事、教師、祭司の職に按手聖任する権能がありました。もし、ヨハネの父は当時この世に生きて居りましたら、なぜ天使のかわりにその息子のヨハネに神権を授ける命を受けなかったのですか。」

解 答

「どういふわけか知らないがこの質問は過去二、三週間のうちに数回わたしのところへ来た。この質問の件については次の通り「教義

と聖約」の中にある啓示により主が完全に明らかにしておいてなるが、この質問が寄せられたのはわたしにとってきっぱりわからない。

「またこの福音は悔改めとバプテスマ、罪の赦し、肉体にかかわる誠命の律法の福音にして、主は怒りの中にアロンの一家と共にイスラエルの子らの中にこれをヨハネに至るまでつづかせたまえり。而してこのヨハネは神これを育てあげたまい母の胎より聖霊に満されたる者なり。ヨハネいまだ幼なかりしときバプテスマを受け、神の天使により生れて八日にしてこの神権に按手聖任せられて権能を受けたるは、ユダヤ人の王国をたおし、その民の目の前に主の道を直くし、すべての能力を御手のうちに持たしたもう主の来りたもう時のためにその民を預め備え置かんためなりき（教義と聖約八十四〇二十七—二十八参照）。

主なる神はヨハネに神権を授けた天使がだれであるかその名前を

明らかにしたいとお思ひにならなかつた。ザカリヤがヨハネを神権に按手聖任することのできなかつたわけは次の通りである。ヨハネは天使から或る権能の鍵を受けたが、それは父のザカリヤがもつていなかった鍵であつた。それであるから、この特別な権能は、正しい認可を得て、それを授けるために遣わされた天の使者から(ヨハネに)授けられた。ヨハネが按手聖任されたのは、単にアロン神権を授けるためだけではなくて、その当時獨特の絶対必要な或る権能を授けるためであつた。その権能の中には「ユダヤ人の王国をたおし、その民の目の前に主の道を直く」する権能が含まれていた。さらにそれはユダヤ人やその他のほかのイスラエル人たちは、主の権能に対するそなえをさせるための権能であつた。この大きな権能を授けるためには、ザカリヤもしくはヨハネよりも前に生れたどのような祭司にも委任されていなかった特に大きな権能が必要であつた。それであるから、主の天使がそれを授けるためまだ幼いヨハネに遣わされたのであつた。

多くの人に共通している困つたことは、ある特殊な出来事に関係しているすべての事実を明らかにしないうちに、或る事について結論を下すことである。教会員の多くが、その前に置かれてある数々の啓示を理解するために、勉強と祈りと信仰とによつて完全な備えをしていないことはきわめて明らかである。このような理解の欠如(啓示のことばの意味がわからないこと)は個人個人の責任であつて、主なる神の責任ではない。

このような考えに對してわたしは御容赦をねがいたいと思うのであるが、わたしはけつしてあらを探し出して見せたいと思つているのではなくて、祈りとけんそんな心を以て、主なる神が下したもう

た啓示のことばを、もっと完全に研究しなくてはならぬことをお互いの心に刻みつけたいと思つているだけである。事実について一部分しかわかつていないときにまちががつた結論に達することは容易である。それであるから教会員、特に神権者の方々はけんそんな心と祈りとを以て精出して勉強をすべきである。人々が悔改めをしてバプテスマを受け「神の御子」が此世へ降臨して導きとめぐみを施し始めたもうのを受入れる備えをするよう教えを授け、このようにして主の前に道をそなえるためにヨハネが遣わされたことは明らかである。これはザカリヤもしくはザカリヤよりも前に祭司に按手聖任されてその職をもつていたどの祭司の権能も及ばないひじょうに特殊な権能を与える按手聖任であつた。

「きたるべきかたはあなたのですか、それともほかにだれかを待つべきでしょうか」とバプテスマのヨハネがその弟子たちをイエスに遣わしてこの質問をさせたとき、イエスは次のように言つてヨハネの偉大なことをあかしなさつた。

「あなたがたは何を見に荒野へ出てきたのか。風にゆらぐ葦であるか。では、何を見に出てきたのか。柔い着物をまとつた人か。きらびやかに着かざつてぜいたくに暮している人々なら宮殿に居る。では何を見に出てきたのか。預言者か。そうだ、あなたがたに言うが、預言者以上の者である」。

「見よ、わたしは使をあなたの先にいかわし、あなたの前に道をととのえさせるであらう」と書いてあるのはこの人のことである。あなたがたに言つておく、女の産んだ者の中でヨハネより大きい人物は居ない(ルカによる福音書七〇二十四―二十八参照)。

また予言者ジョセフ・スミスはこのことばを解説して次のように

言っている。

「第一に、彼（ヨハネ）は主のみまえに道をとのえる神聖な使命を託された。ヨハネに託された信任はまことに空前にして絶後であるものである」。

「第二に、彼（ヨハネ）は重大な使命を託された。それによって「人の子」すなわちイエス・キリストにバプテスマを施すことが彼に要求された。：「神の御子」をバプテスマの水に沈めたまつり（バプテスマを）施こし終ったとき、そのあかしとして聖霊がはとの「かたちをして」もつと正しくは、はとの「みぶりをして」（in the form of a dove or rather in the sign of the dove）下りたもうのを見る特権を得た者がヨハネのほかは一人でもあろうか。

「第三に、彼（ヨハネ）はその当時地球上に在った王国をつかさどる唯一人の正当な管理者であつて権能の鍵をもっていた。ユダヤ人は彼ら自身の律法によつてヨハネの教えに従わなくてはならなかった。そうでなければ罪ありとされた。またキリスト御自身は、キリストがああの上でモーセに授けたもうた律法に従つてすべての義を成就し、これによつて律法を破ることなくかえつて律法を高めて尊ぶべきものとなさつた。ザカリヤの息子（ヨハネ）は、神聖な受膏（油を注がれること）と天の命令とによつてユダヤ人から鍵と王国と権能とをもぎとつた。以上挙げた三つの理由によつて、ヨハネは女の産んだ者の中で最も大いなる者である」（「予言者ジョセフ・スミスの教え」二七五—二七六頁参照）。

伝道部扶助協会会長メッセージ 柳田 聰子



一九六五年を迎えるに当って

新しい年を迎えるに当り、心を新にして新年の目標を見つめたいと思います。

永遠につづく生命を持つ人間は、この世を「かりそめの世」などと思わずに、誠に永き生命の大切な土台を造る時代であると自覚しなければならぬと思います。

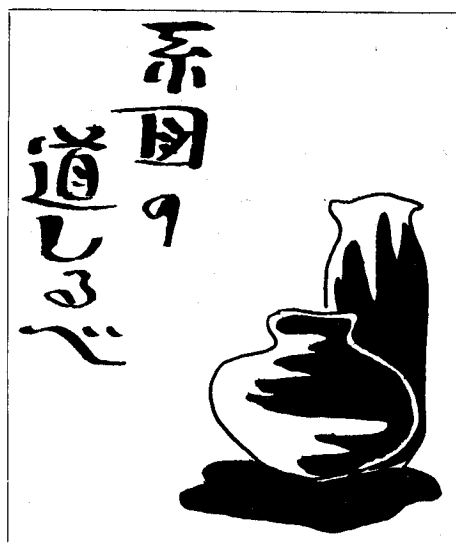
人の親というものは、どんなに世の中から相手にされないような子供であっても、又どんなに多勢の子供を持っていたても、自分の子

はどの一人も愛さないでいられないし、又要らない子は一人もないものだといふ。時に「親の心子知らず」で、すねた気持ちから「私なんか家では要らないんだろ」等という子があるようですが決して親にとって要らない子などというのではありません。私は息子が何年か前に学校で無思慮な冒険をして、幸に少しの怪我で済みましたが、その時彼が自ら敢えてその冒険をしたと聞いて、悲しみと怒りで泣きながら叱ったものでした。子供は親にとって大切なものであるのに自ら粗末にし、危険に晒すことは悲しいことなのです。

比べては畏れ多いと思いますが、私達の天のお父様の御心もきっとそのような御心ではないかと思ひます。「汝ら、人の値は神の前に大いなることを憶えよ」(教義と聖約十八章十節)この御言葉を思ふ時、私達は決して自分を粗末に扱ってはならないと思ひます。私達は自分で自分を低く落すようなことをして良いでしょうか。私達を案じ見守って下さる天のお父様に少しでも安心して頂けるように、御言葉に従つて素直に生きる事こそ、本当の良い子供のとるべき態度だと思ひます。私達の廻りにある小さな喜びも見すごすことなく、それ等を努めて見出し、氣付き、喜んで感謝するなら、天のお父様はきっと安心し、喜んで下さることでしょう。自分以外の人を養ひ前に自分に与えられている物の中から感謝の程を見出すことが大切だと思ひます。それは現状に満足して向上を妨げることは違ひます。私達が素直な心を開いた時こそ進歩の道が拓かれるのではあります。己れの判断に依らず天よりの導きを受けるように自我を抑えて心を聞きましよう。聖典のすすめを受け入れて実際にやってみましよう。すべての平和と幸福の鍵はその素直さ、言いかければ所謂謙遜だと思ひます。その事を忘れ自己の判断を主張する

と平和も喜びも幸福も遠のいてしまひます。

誠に一九六五年は輝かしい年です。日本に恵の光がいや増しに加えられ、輝く年です。すでに私達は東京の地に聖徒達の建てた素晴らしい教会堂をいくつか持つて居りますが、今年は更にそれが各地に拡がつて完成される事でしょう。又初めて大きなグループを作つて神殿に行く計画の実現されようとしている年です。それによつて真の輝かしい福音の奥義を掴むことが出来る年です。この恵の光を一人でも多くの兄弟姉妹達が身を以て受け、更に隣の兄弟姉妹に分けましよう。それ等を通してこの日本の地は一層導きと恵みを受けるでしょう。泣き言をいうのをやめましよう。明るい面を見付けましよう。そして希望を持つて力を合わせて働きましよう。教会の組織を通し、又生活を豊かにし、愛を大きくする為に夫々の社会で、家庭で才能を磨き、実力を養成し、恵みを受けたモルモンの光を世に輝かそうではありませんか。



完成シートの作成数

親愛なる兄弟姉妹、日々、神様の暖かい御守りと御恵みの内に生活の事と思います。

神殿訪問計画も推進しつつあります今日、良り一層、系図に励まれておられる事でしよう。

シート記入方法が少し変更されましたので完成シート作成数を図に示しました。

	1	2	3	計
	日本文と英文を同時に記入 (英文用紙)	日 本 文 (日本文用紙)	日 本 文 (日本文用紙)	
家 族 の 記 録	1 枚	1 枚	1 枚	3
系 図	1 枚	1 枚	1 枚	3

説明

1は一度ソトレークの系図協会に送られ正確にファイルされてのち神殿に送られ諸儀式が行われる。そしてファミリー・グループ・シートのコピーが提出者送到りかえされる。

2は伝道張に保存。

3は個人で所有し記念の書におさめる。

(注)

① 1と2のシートは支部系図委員会を通じて伝道本部へ送る事。

② 英文と日本文同時の記入の時、空欄がない場合は規定に従って星印を付け(★)裏面に記入する。

裏面に沢山記入する場合は星印に番号を付けて記入連結事項を明瞭にする事。

神権に関する啓示



神学「教義と聖約」

第六十一課（「教義と

聖約」八十四・一

四十二）

一九六五年二月第一遍

目的 人の救いに神権の重要なことを理解

し、又現代に於て神権保持者に特別な
祝福が与えられていること、又神権の
重要さがその誓言と誓約に反映してい
ることを理解する。

序 文

一八三二年の春から秋迄予言者ジョセフ・
スミスは聖書の改訳を続行して居りました。
七月に彼は、イヴニング・アンド・モーニング・
スターの写一部を受取りました。今や出版
物によって回復された福音のメッセージが世
界に宣べ伝えられるようになったので予言者
や聖徒たちは大変喜びました。この出版物は
又一連の啓示の印刷保存の役目を果たしたの
であります。何となればそれらの啓示は一八三
五年迄出版されなかったからであります。一
八三三年に印刷中の印刷機をミズーリの暴徒
が破壊した時、未完成のわずかな書籍を除い
て、その年の刊行物は皆、害われてしまっ
たのであります。この新しい定期刊行物は又聖
徒たちがその敵の偽りの非難に回答する手段
ともなったのであります。

九月中に長老たちは伝道地からその職務の
報告に來ました。そしてこの月の二十二、二

十三日に主は上述の仕事に従事していた予言者の眼を開いて、神権に就ての素晴らしい啓示を与えたのであります。

新エルサレム神殿

八十四章は予言者によって予告されていたように教会は主の民を集めることの確言を以て始まって居ります。更にその時及びその後の集合地は末日に聖徒たちが立つてであろう新エルサレム市であります。(一、二節)既に予言者によって献納された場所、ミズーリ州の西境に位置したこの市に建てられるであろう神殿に就て予言がなされました。主は雲すなわち主の栄光のかかる神殿が今の代に建てられるであろうと予言されたのであります。

(三十五節)

一八三二年から百年の間に神殿が建たなかったで或教会の会員たちは一代の長さに就ていぶかりました。モルモン経(ヒラマン書一三・八一―一一)に指摘してあるように、ある状態の下に於ては一代は百年であります。他の状態に在つては不足の期間を指します。例えばイエスは邪惡で不義な時代は、しるしを求める(マタイ伝一二・三九)と言われ又私たちのこの神権時代に主は、されど今の代の人々には汝(ジョセフ・スミス)によりて、

わが言を与うべし。と言つて居られます。これらの例からして時満ちたる神権時代がこの代と考えられたことは明白であります。私たちの時代の人々は、まだジョセフ・スミスの啓示を通して主の御言を受けて居ります。八十四章の四節五節に意味された年数を決定する方法はありません。けれどもここに二つのことが知らされて居ります。第一に主は予言者を通じて神殿は今の代に建てられるであろうと言われました。二番目はこの宣言がなされてから教会の指導者たちは決して主の御意志から、はなれなかったことであります。

神権の系統

神殿を建てる情報を以て、神権に就ての啓示を始めることは適當であります。神殿は神権の最高の儀式及び祝福が受けられる潔められた神聖な場所であるからであります。(教義と聖約一二四・二五―四二)次にモーセの神権の系統を見出します。(同上八四・六一―一六)神権は眞の教会に於て永遠に続くものであります。(一七節)

神の知識

メルケゼデク神権の一部としてアロン神権を参照した後、大神権の能力に就て次のように言われました。

而してこの大神権は福音を授け、また王国の奧義の鍵、すなわち神の知識の鍵を保つものなり。この故に、これを以て礼式を執り行う時に神の能力顯る。而して、この神権を以てする礼式と神権の権能なくしては、肉身を持てる人間に神の能力顯るることなし。それはこれなくしては、何人も、神の御顔、すなわち御父の御顔を見て生き得る者なければなり(教義と聖約、八四・一九―二二)

メルケゼデク神権は福音のすべての靈的な祝福の鍵を握つて居ります。神の知識及び救いの眞の計画は神が設定された神性な手段を通じてのみ可能であります。永遠の生命は、天に於けるが如くこの地上に於てこれらの儀式を結び固める権能によつて執行された儀式なくしては得られないのであります。神殿で執行される神の王国の奧義は最高の日の栄えに高められようと望む者の為に保存されてあるのであります。これらの儀式は忠実な者の爲であつて世の爲のものではありません。

(マタイ伝一三・一〇―一三、マルマー二・九―一一)八十四章の二十一節及び二十二節に人が神を知るべく神に逢う爲には神権が必要であると言つて居ります。

昔のイスラエル

八十四章の中でモーセの時代のイスラエルの子供たちの経験に注目するように指示されました(二三節、二七節) モーセはイスラエル人に昇栄の原則を教えようと努力しましたが彼らはその心を頑固にして自ら、主の面前に出る機会を拒んだのであります。モーセは大神権を持って居りましたが、ホレブ山上で主は彼に昇栄の原則と儀式をも含む、満ち足れる福音を与えたのであります。モーセはイスラエル人の偶像崇拜の状態を見た時石文の板をこわしました。既に八十四章二十六節二十七節で指摘したように肉体的な誠の律法を含む他の石板は与えられたがメルケゼデク神権はイスラエル人から取上げられたのであります。ジョセフ・スミスの改訳聖書の中に私たちは八十四章に合致した次のような聖句を見出します。

。主はモーセに言われた。「あなたは前のような石の板二枚を切って造りなさい。わたしはあなたが砕いた初めの板に、書かれたようにその板にも律法の言葉を書くであろう。けれどもそれは始めの通りではない。何となれば私は彼らの間から神権を取上げてしまったからである。だから私の聖なる神権と儀式は

彼らの面前に存在しないであろう。彼らが滅されてしまわないように私は彼らの間に行かないであろう。

けれども私は最初のように彼らに律法を与えるであろう。けれどもそれは肉体的な誠の律法である。何となれば私は怒って彼らが放浪する間、私の下に来て休息することが出来ないように誓ったからである。(出エジプト 三四・一、二)

このようにして昔のイスラエル人は神性な儀式及び神の知識を受ける機会を失ったのであります。大神権が失われたのでアロン神権が時の絶頂にキリストが来る迄、予備的な福音又は肉体的な誠の律法として執行されたのであります。モーセの時代から、キリストの時代迄に大神権を持った予言者が居りましたがそれは今日のようにして他人に授けられたものではありません。予(言者)ジョセフ・スミスの教え一八一頁)

バプテスマのヨハネ

バプテスマのヨハネはキリストの先駆者であって主の道を直くする為に神に遣わされた者でありました。彼は幼児の時にバプテスマを受け、生れて八日目で天使から神権を授けられたと言われて居ります(教義と聖約

八四・二八) 新約聖書は彼は神に召されたと言って居ります。(ルカ三・二)

モーセの息子たち

メルケゼデク神権及びアロン神権は附属の職を持っていることに就てふれて(教義と聖約八四・二九―三〇) から再びミズーリのジャクソン郡に神殿を建てることに言及して居ります。これらの数節は今日の神権者によって奉仕がなされること又新エルサレムの神殿の機能に就て指摘しているので非常に興味深いものであります。そしてその神殿で受入れられる捧物を捧げるのはモーセの息子たち及びアロンの息子であると言われその兄弟たちはその家で主の栄光に満たされるであります。(三十一節三十二節)

けれども今日、ミズーリのインデペンデンスの神殿が建てられた時は誰がその中で儀式を執行するように約束されているのでしょうか? 主は次のように答えられて居ります。

。およそ忠実にしてわが今語れる二つの神権を得、而してその天よりの召を全力を尽して遂行する者たちは「みたま」により望められてその肉体再新さる。これらの者は、モーセの息子たちとなり、アロンの息子たちとなりアブラハムの子孫となり、また教会員にして

王国の民となり神の選民となる（三十三節、三十四節）

これらはその召しを尊び発揚する末日聖徒の神権者たちであります。言いかえれば誠命を守ってその召しに応える者は神権の機能を遂行しているのであります。

神権の重要性

八十四章の三十五節から四十二節迄に神権の重要性が知らされて居ります。先ず神権者による神権の受入れそしてすべての神権を受入れる者は私を受入れると主は言われました。

それは、わが僕らを受け入るる者はわれを受くればなり、また、われを受け入るる者はわが父を受くるなり。而してわが父を受け入るる者はわが父の王國を受くるなり。この故にわが父のもてるすべては彼に与えらるべし。而してこは神権に属ける誓詞と誓約によりて然るなり。（三十五節—三十九節）

この節の中で神の子たちに与えられる最高の祝福—永遠の生命が約束されて居ります。これは三十八節に最も完全な迄に述べられてあります。主の僕を通じて主を受入れる者に御父の持てるすべてが与えられるのであります。主の僕を受入れることは、昔及び今日の

主の予言者によって与えられた、主の御意に完全に従うことを意味します。人がこの約束の結びつける力を理解出来るように啓示は神権に属ける誓詞と誓約を参照して居るのであります。

神権に属ける二番目に大切な責任は次の言葉に見出されます。

この故にこの神権を受くる者は、すべてわが父のこの誓詞と誓約を受け而してこれをわが父は破ることも変えることも為したもうはずなし。されど何人にまれ一度この誓約を受けて後これを破り、またことごとくこれに違背する者はこの世に於ても未来の世に於ても罪の赦しを受くることなかるべし。（四十節—四十一節）

この聖句は神権者に注意を喚起して居ります。神がその忠実な息子たちに与えた結び固める権能は受ける人と主との間に誓約（同意又は契約）がなされたほど重大なのであります。実際に於てこれは若しも貴方が神権の律法に従うなら、主は我が能う限りの祝福を与え、我の如くにさえなると言われて居るのであります。

メルケゼデク神権を受けたすべての人は、その神権に属ける誓詞と誓約を受けたのであ

ります。この同意は大神権に含まれるものであって、アロン神権ではありません（教会歴史録五五五）

誓詞と誓約の第一の必要条件

前述の神権及び神権者の責任に就て十二使徒会のデルバート・エル・ステープレイ長老は、福音の標準に忠実であることの必要性を提案しました。彼はそこで長老が自分の忠実さを評価出来るように次のような質問をしました。（この質問は教会の各会員にも適用されます。）

一、人は最も大きな二つの誠命、心をつくし精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。と、自分を愛するようあなたに隣り人を愛せよ。を守ることなくして忠実になれるであろうか？

二、人はその友情に於て真実でなく又友人に對して為すすべての行為に於て正直でなくして忠実になれるであろうか？

三、人は安息日を崇び聖く保ち聖餐式、神権会に出席し、その他彼の召しに属けるその日のすべての義務を果すことなくして忠実になれるであろうか？

四、人は家庭に在って毎日の家族の祈りをせずして、忠実になれるであろうか？

五、人はその子供たちにキリストの福音の真

の原則を教え、この真理に従って生活することによって彼らを価値ある模範者とさせることなくして忠実になるであろうか？

六、人は知恵の言葉を守らないで忠実になるであろうか？

七、人はその心からなる什分の一と断食献金をすることなくして忠実になるであろうか？

八、人は貞節の律法を守り、その生活及び習慣が道徳的に清潔でなくして忠実になるであろうか？

九、人は聖なる神殿の中で福音の高い儀式、エンダウメント及び結び固めを受けて、その家族を愛と理解の内に幸福に永久に結合するように従順と犠牲を以て自分自身を価値ある者に準備することなくして忠実になるであろうか？

十、国の法律を崇び、それに従うことなくして忠実になるであろうか？（一九五七年四月大会報告、七十六頁）

上述の質問は、単に責任の或部分を指摘しただけに過ぎません。この外にも忠実さをはかる手段は提案されるかも知れませんが、これらの列挙した各項目は、神権の誓詞と誓約を守る

のに特に大切なものであります。

誓詞と誓約の第二の必要条件

更にその責任に導きを与える為にステプレイ長老は大会に於て、誓詞と誓約の第二の必要条件は自己の召しを全力を尽して遂行することである（教義と聖約八四・三三）と指摘し更に次のような質問をしました。

一、人は献身的な真の主の僕として神権を学び、忠実な価値ある者となることなくしてその職及び召しを遂行出来るであろうか？

二、人はその職に霊的なへりくだった尊厳さを与えることなくしてその召しを遂行出来るであろうか？

三、人は彼のステーク部長、監督又はその他の構成された幹部から務めるように職を与えられた時、それを断つてその召しを遂行出来るであろうか？

四、人は若し福音の標準と要求に従うことなく、又正しく召され人々によって彼らの指導者と認められた正しい人の忠告と指示に従うことなくして、その召しを遂行出来るであろうか？

五、人は彼を管理するように神に召され、聖任された人をその信仰と祈りと働かきを以て支持することを拒んでその召しを遂行出

来るであろうか？

六、人はその神権を人々の祝福と利益の為に正しく行使することなくしてその召しを遂行出来るであろうか？

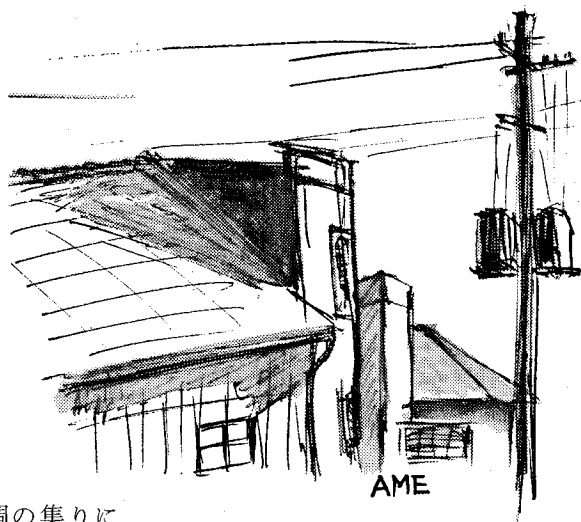
七、人はその心からすべての悪を取去り、神に喜ばれて、人々の祝福に神権を用いることなくしてその召しを遂行出来るであろうか？

再び結論として、神の王国をこの地上に正しく真実に力あるものとして建設すべく、すべてを捧げようとすることなくしてその召しを遂行出来るであろうか？（一九五七年四月大会報告、七六―七七頁）

罰

神権の誓詞と誓約に就てのこの啓示の文と精神はこの誓約の結ぶ力を強調して居ります。主は人がその神権を崇び発揚する限り、この誓約を破らないでしよう。教義と聖約八四・四〇）この誓約を守る責任は人に在ります。人は試みられて居り神ではありません。この誓約の重大さは完全に神権から離れ去った者は赦されないと云うことを指摘していることであります。四十一節）何となれば、この世に於ても未来の世に於ても罪の赦しを受

人がその家族と彼自身の
幸福のためにすでに持っている
物を使用出来る方法を評価する



仕事会

扶助協会レッスン

1965年2月の第2週の集りに

考察その五、その人の資力を用いることが
幸福の鍵である

ダグラス・ジェロルドは幸福は私たちの妬みに成長するものであって知らない人の庭で採取出来るものではないと書きました。私たちの家庭が大きかろうと小さかろうと或はその環境が広大なものであると微小なものであろうと、私たちが現在持っている内に現状の儘の内に私たちの家庭の幸福を見出すべきであります。私たちは私たちの隣人が美しい新車でドライブするのを見るかも知れません。又私たちは豪華な友人の家を訪ねるかも知れません。その時、私たちは幸福は私たち自身の環境の内に見出さねばならないと言うこのレッスンをよく学んでおかないと嫉妬のとげが私たちの心を刺して幸福はだんだんと漏失してしまうのであります。

何年か前に或大学町で一団の人が卒業し、その内殆どの人が結婚して小さな家庭を持ちました。彼らは皆非常に逼迫した生活をし、自分で家の掃除などもしわずかな収入を得る為に家庭教師をしたり、家族の衣服を自分で作り余暇があれば勉強し、時たま簡単な娯楽をするとうような状態でありました。これらの人々がそれから教授となり、化学者となり、会社の重役となりましたが皆声を揃えてその物質的に不自由だった時代を懐かしんで語り合っているのであります。皆

が一致してその頃が一番、幸福であつたと言っているのです。恐らくその時の幸福さはその当時の純心な心と生産的な手によるものでありましょう。

私たちの経済状態がどんなであらうと幸福というものは、このような生産的な活動から成長するのであります。奥庭にかまどを造り椅子を取付け、ガレージのペンキを塗り絵画を枠にはめ、戸棚を造り、古布を染め、家具を改造し、壁紙をかけ、温室を設け、桜花又は種から薔薇を育て、ゼラニウムの冬越しをしたりします。既に立派な家庭であつてもこのようなことをすることによって幸福は倍加するのであります。

資材が限られていると云うことが文化的な生活を楽しむことを制限するものではありません。多くの図書館は豊富な書物を備えているばかりでなく立派なレコードや絵画なども借出して家庭で楽しむことが出来ます。

テレビジョンやラジオは交響楽やオペラやバレエや演劇の番組を提供してくれます。大都市に於ては自身の聖歌隊、管絃楽団、劇団その他芸術的な社会を組織して居り素人の志願者を歓迎して居ります。

夏にしばしば開かれる一般公開の音楽会に

は誰でも自由に行つて聞けます。よい文学の研究會は何処にでも開かれて居ります。高等学校、大学に於て、多くの科目別の夜のクラスが開かれて居ります。才能を分ち合うことを基礎にして私たちの子供又私たち自身の為に機會と特權が与えられて居ります。貴方が私の息子にピアノを教えて下さる代りに私が貴方のお嬢さんに料理を教える。又美術と裁縫或は、弁論とダンス又は育児の交換教授をし合つたりします。博物館、陳列館、及び動物園公園、或は、趣味で集つてゐる俱樂部などを訪ねても非常な喜びと刺激をもたらすものであります。家族の創意工夫はその心がけ次第で資材の限界を越えて望み通りになるものです。そしてその結果は何と幸福になることでしよ。

如何なる家庭に於ても楽しめる最大なる喜びの一つはその家庭に客を迎えることであります。家族は台同の家族の夕に招待されることもあります。市外の訪問者は、その家庭に泊ることによつてその家庭生活を豊かなものにする事が出来ます。末日聖徒でない隣人は貴方の家に招待されることが最初の末日聖徒の家庭を訪問することになるかも知れません。子供たちは誉れある主人公となることを

学び感動を与えるような會話を楽しむようになります。

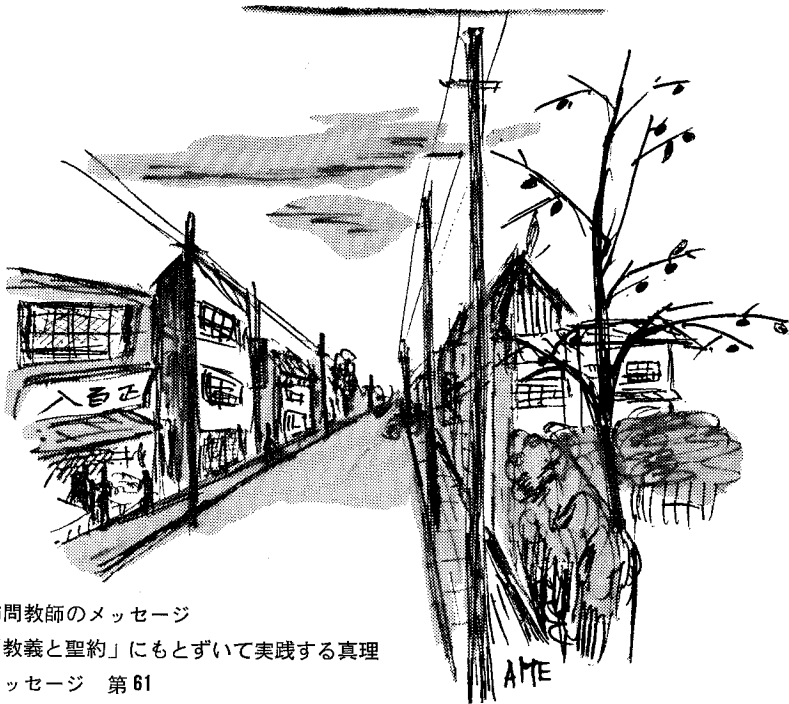
客を迎えるのに何も家を豪華にしたり特に御馳走を用意したりする必要はないのです。家族が出来る範囲内でサービスするように計画し、真心を以て親切に款待する時、お客さんはその暖い友情を感じて訪問したことを心から喜び楽しむのであります。

或家庭は先祖伝来の蓋付きスープ入れ又は皿などを用いて伝統的なスープ食でもてなします。そのスープにはどんなものでも季節に適したものであれば、セロリのしん、じゃがいも、蕪、えんどうなどで結構であります。それにそえて野菜サラダ、ホットロール、デザートなどを提供します。その食事は高価なものでもなくても、そのような招待は、いつも楽しく幸福なものであります。

昔、十二使徒會員であつたジョン・エイ・ウィット博士は自叙伝の中で次のように書いて居ります。

私は上級の學問をおさめたので非常に大きな借金を負つていたのですが私の給料は少なかつたのです。けれども私の妻にしても、私にしてもそれ以上借金をしてはならないの

汝ら警めよ、悪魔はその領分を上げ、 暗黒は支配せり



訪問教師のメッセージ

「教義と聖約」にもとづいて実践する真理
メッセージ 第 61

1965 年 2 月第一週

目的 サタンは人々の心を捕えようとして一生懸命働いているので私たちは常に永久に警戒していなければならないことを強調する。

天国の戦に於て、サタンとその軍勢が追出されてから、彼らの悪意は常に人の心をとらえ、主の計画をくじこうと苦闘して来たのであります。悪は常にこの世に存在して来ましたが特にこの地上に神権の存在した時期にはその支配力をふるおうとして挑戦して来たのであります。この故に福音が回復されてから、私たちは繰返して悪の誘惑にかからないように警告して来たのであります。天上の御父の王国が今程急速な進歩を遂げている時はありません。従って、その敵もそれを妨害しようと、史上未曾有の動員をしているのであります。

私たちの今日の生活は誘惑に充たされて居ります。その圧力はあらゆる方面から加えられて居ります。私たちの読む、広告、ラジオテレビ、映画、書物及び遊びなどであります。すべてこれらのものは時に応じいろいろな方法を以て私たちの道徳水準を低下しようと試み、私たちの標準と原則の隙をうかがっ

て居るのであります。

これらが、敵の私たちが完全に彼の支配下になるように一歩ずつ、わなにかけようとする悪だくみであります。これらは、小さな誘惑であって、何ら害もなく魅力的に誘いかけるのであります。これらは恐らくニーフアイが末日に多くの者が次のように言うであろうと言ったことを指すのでしよう。

「飲み食いをして楽しめ、そうすればわれらは幸福で満足である」と言う者が多くあり飲み食いをして楽しめ、しかし同時に神をおそれよ。神は小さな罪を犯すことは許したもう。それであるから、少々偽を言い人の言葉につけ込んで欺き、隣人をおとし入れる穴を掘れ、これは少しも悪い事ではない。われらは明日死ぬかも知れないから、すべてこのようなことをしても差支えない。たとえ、われらに罪があると認められても、神はわずかにわれわれを鞭うちたもうだけであって、われらは結局神の王国に救われる」と言う者も多くある。(ニーフアイ第二書、七、八)

悪魔はいつもこのように働きます。彼は私たちを一步誘惑の道に踏み込ませると完全にわなにかけてしまうことを知っているのです。あります。これが私たちが常に高慢、嫉妬、

誇りなどの誘惑に気をつけ、抑え切れない、怒り、いらだたしさに逃げ道を与え、利己心嫉みを克服してなくしてしまふように注意していなければならぬわけであります。私たちは失望したり疑ったりするようなことなく、あら探ししたり争ったりするようなことが所謂、容易にすべり込む性格の弱さの、小さなこと。と言われることでそれが容易に大きなことに発展し、遂には私たちを天の父のみたまからそらしてしまうのであります。

敵の誘惑を警戒するに当って、悪者は私たちの最も弱い隙をうがっていることを知って私たち個人個々の弱点に目覚めようではありませんか。

このサタンの闘争と私たちの行く道に投ずる誘惑にも拘わらず私たちはこれらが私たちの成長と進歩の爲の主の計画であることを覚えるべきであります。誘惑は人の世に於て大切であります。何となればそれを拒絶することによって人の霊は進歩し強くさせられるのであります。(ホイツトニー・オルソン・

エフ土曜日夜の冥想三一〇頁)

リーハイは永遠の原則を説明し、その息子たちに教えて言つて居ります。

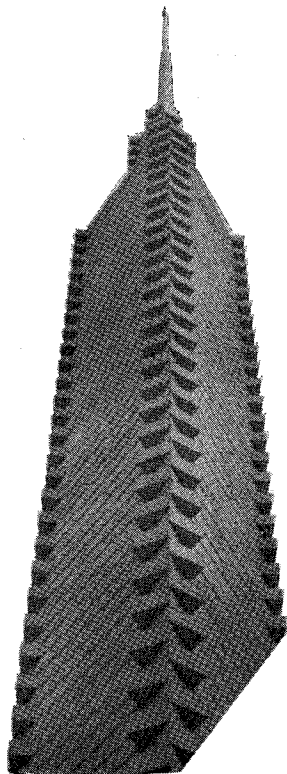
それは、すべての物事には必ずその反対のものがなければならぬからである。……もしも物事にその反対のものがなければ……正義も生ずることができぬ……もしも罪がないと言ふならば、また義もないと言ふならば幸福はないであろう。しかし人間はもしもあれに誘われこれに誘われなければ、随意に選び行ふことはできないのである。(ニーフアイ第二書二・一一一三、一六)

私たちはどのようにして悪から善をはつきりと区別し、悪の誘惑から逃れるように私たち自身を武装することが出来るでしょうか？ 予言者、モルモンはモルモン経の中で私たちが如何にして善悪を見分けるかに就て言つて居ります。

すべての人々はみな善悪の区別を弁えるために、キリストの「みたま」を授かる。さて今、私は判断の方法をあなたちに教えよう。善を行えとすすめ、またキリストを信ぜよとすすめるものは、みなキリストの権能によつてその賜として来るのであるから、それが神から出たことは何の疑いもなく充分確に知ることができる。これに反して、悪をせよ

(48ページにつづく)

神の律法と教会制度



社会科学

扶助協会 レッスン

1965 年 1 月 第 4 週の集りに

第十七課 家族関係に於ける神の

律法の機能 (完)

目的

人格をつくり上げる最も効果的な方法は健全な家族関係に基くことを示す。

団結は完全な家族の一团の中に打建てられる。

人類向上の為の神及び人のすべての工夫が効果的であるには家庭からもたらされるところの訓練を認めねばならない (ジョン・エイ・ウィットオ、神権と教会制度八〇頁)

家庭―神聖な委任

家庭は神に任命された神聖な機関であります。それは御父の霊の

子たちがこの地上に於ける生活の最も印象的な期間に親密さと刺激と愛と環境を保証するものであります。

聖文によれば結婚はすべての男及び女の為に備えられたもので彼らがその創造の目的を達成する為に必要なものであります。

ただ、主にあつては、男なしには女はないし、女なしに男はない。(コリント前書一一・一二)

またマルコ伝一〇・七・九を見ますに

。それゆえに、人はその父母を離れ、ふたりの者は一体となるべきである。彼らはもはや、ふたりではなく一体である……。

創造者は最初の夫婦への命令で彼の計画に子供たちの大切なことをはっきりさせました。(増えよ地に満てよ) そして親としての責任が受入れられたのであります。アダムとイヴとは神の御名を讃め息子娘らにすべてのことを知らしめたり。(高価なる真珠モーセ

子供たちは教会の会員となり、教会は会員に反映しているその教えによって判断されます。会員として子供たちは人生及びその目的に対する根本的な態度を成長させる家庭の環境に大体依存しているのです。親としての責任と義務は子供たちに正しい原則を教える、彼らによい模範を示すことであります。このようにして正しいことと悪いことの区別を知るのであります。その何れを選ぶか自ら決定することは各人の責任であります。

家庭生活内の完全

私たちの蓄積された知識及び家庭生活の経験と私たちが受ける神よりの導きと忠告と家庭の福祉の為に神権者に与えられる可能性のある個人的な啓示を以て私たちは一家庭を殆ど完全に近いものにつくりあげねばなりません。これにより若しも私たちの家庭が正しく営まれているならば、家庭生活に知られている大部分の社会悪というものが取除かれるであります。犯罪、少年感化院、離婚、遺棄、脱走及び全般的な争いなどの問題はなくなるであります。今日程家庭の爲のいろいろな援助の可能な時代はありませんでした。

貴方の家庭に於てワード部に於てステーク部に於て、その結果はどのようなでありますか。

先ず私たちの家庭内の小さな事から調べて見ましょう。この小さな事はひいては大きな問題に発展するのであります。貴方自身の家庭に不正直、欺きがないであらうか、又は家族の相互間に信義が欠けてはいないでしょうか。家族の相互作用に於て利己心がどの程度現われているだらうか、自分のことより先ず他人のことを考える

という愛の精神が家族のに溢れているでしょうか？ 貴方が子供をしつける為に叱る時感情が入っていないでしょうか？

ごらん下さい。これらの事又その他多くの家庭内に起った事が子供のの一部となり、毎日彼が経験することが月日の経過と共に彼の部分として形成されて行くのであります。各人をして注意深く毎日の家族生活の経験を検討し、彼に可能な最上の情報又は知識、実習を以て評価させてごらん下さい。私たちは家庭内で若い人たちが自ら正しい判断が出来るように育成しているでしょうか、私たちが親としての義務を遂行している時に神の導きと忠告に耳を傾けているでしょうか？

神よりの靈感は神権に対し教会の如何なる職に召された場合と同様に家庭に在っても、彼の家族を導く義務を果すに当って得られるのであります。家庭が教会の会員として又一般に社会の構成員としての子供たちに及ぼす影響が重大であるので、神の力と作用はこれを受ける資格があり且求める者には常に容易に得られるのであります。福音に生活することが夫の祝福をもたらすのであります。

家庭生活の運営は共同の計画である

神の側に於て、女なくして男はないこと及び神権の完全さは神殿内で結婚して結び固められることによってのみ可能であることを、ここに再び強調致したい。このような結婚に於て、彼ら二人は一体となるのであります。このようであるなら一家庭の成功に、同等の責任を持っていることは誠にもっともなことであります。私たちの言う結婚は永遠であり、この生涯の経験の総計は直接永遠の関係にも、もたらされるものであります。

判然としたお召し

家庭の運営に當つて夫と妻との間にその指導性に就て競争はないのであります。彼らは判然と異なつたお召しを持って居り、独特の機能を以てお互に援け合つて末日聖徒の家庭としての責任を果しているのであります。

父親は家族の収入の責任を負うて生計を立て、母親は節約し、知恵を働らかして父親の収入に立脚し経済的に恵まれた福利ある生活を営みます。

生物学的に父親と母親は一人々々の子供に明白な貢献をして居りますが、けれども懷妊中子供がおなかの中で成長している時、母親はその子に対し父親の知り得ない親密さを持つものであります。けれども幼児が成長して成人になる迄父親は母親の出来ない処の忠告指導をし生活の保証と安定を与えるのであります。

概して父親は家族の者の外部との接觸、社会との交際を指導し、母親は家庭内を潔めて、完全な安定した場所とします。彼女はその購買力だけでなく、工夫と創意を以て思考をこらしてその家の中を彼女独特の模様に仕上げます。誠に子供たちにとって家庭程の処は何処にもないのであります。けれども或場合には、父親が資料を供給し母親がそれを家の様式に調整することは興味ある共同作業でもあるのです。

家庭内に於ける父親と母親の協力の結果は小さな子供たち一人一人の靈的肉体的成長に當り、広範な刺激を見出す環境を造るのであります。すべての家族の特に父親母親の生きた模範が新しく生れた赤ん坊の全般的な動作を型造つて行く上に最大な影響を与えるのであります。成長した子供が自ら判断し決断せねばならなくなつた時それが家庭内で訓練され教えられた価値あるものと一致しているか

どうかその能力にその性格が真にためされるのであります。

貴方は子供たちがどのような価値を持つことを望みますか？ 貴方が觀察して來た価値は如何に神聖なものでありましたか？ それらは創造者の意図にそつたものでしょうか？ それは貴方の子供さんの生涯に最善の結果をもたらすでしょうか？

家庭は何をなすべきか

末日聖徒イエス・キリスト教会の価値を考えその教えが組織的に実生活に取入れられてのみ価値あるものとして人の心に残ることを自覚する時、次のようなことは家庭として、なさねばならぬ極めて大切なことであります。即ち次の各項を發展させねばなりません。

一、宗教的ふんいき

宗教は私たちの生きる道であります。そこには神と御子イエス・キリストの実在に就ての確信がなければなりません。これが私たちの信ずる根底であります。聖靈の援けによつて満八才になつたすべての子供はこの証を持つことが出來ます。(教義と聖約六八・二五) 祈りは神と接觸する仲立ちであります。謙遜なふんいきと信仰に満たされた家庭は祈りの氣持を起させます。子供たち一人一人が、日々直面するいろいろな問題の解決に、神の援けを願うべきであります。人生の靈的な方面の育成も丁度肉体的及び知的方面の進歩發展と同様に、自然に規則正しく、なさねばなりません。親は子供たちが家族の祈りをよく実行するように、又什分の一を払い知恵の言葉その他の根本的な道徳を守るように教え、しつける義務があるのであります。

二、律法及び命令を尊重する。

自由意志は理知的な選択の權利、決定の權利であります。自由と

は社会の定められた制限内で行動する権利であります。真の意味に於て自由は一人の自由が他の人の自由を犯すようなことは許されないものであります。

律法を知り、その制限内で生活することは自由の本質であります。律法と命令に最初に接するのは家庭環境であります。家庭の中で賢明に実施されて来た規律ある行為は、その子供たちが成長するにつれて接触する社会、国家及び神の王国内の律法及び命令に対する態度に反映進展するのであります。

成功の公式

家庭内のしつけは、その子供がその生涯に於て遭遇するであらうあらゆる冒険に対し積極的態度で臨むか或は又消極的態度をとるかその態度を育成出来るのであります。子供に自信をつける上に於て積極的な面に於て為すべきことが多くあるのであります。思慮深い導きによって子供は自身の問題を確信を以て自分自身で解決する能力を展ばすことが出来るのであります。次の諸点は、人生を成功に導く確信を築き上げる援けとなるかも知れません。

- (一)子供たちがしつけの真の意味を理解するように又権威者を正しく認め、それに従い一致することの重要性を自覚するように援ける。
- (二)子供が仕事の意義と価値をはっきり知るようにさせる。成功への道は一生懸命働らく以外にはないのであります。要はその時間と才能を如何に有効に用いるかであります。

(三)子供に止ることを知らない知識欲を起させ系統立てて目的に向つて集中させる。

四)子供の人生に対する興味を展ばし、彼の仕事及び宗教的な確信に對する熱意を燃え上がらせる。

如何にも増して子供の心に従順さを育成し、同時に彼がその生涯に於て神を尊び敬い、神に感謝するように育てること。

結論

要するに子供は他の如何なる影響よりも彼の家庭生活の産物なのであります。人はその人生觀の根本をなす価値の自覺の内に毎日の任務を遂行することによって、その性格を進歩させるのであります。子供のしつけに當って最も大切な親として為すべき唯一のことは教えたことに価する生きた模範を示すことであります。

考察の爲の考え

- (一)結婚は神よりの命令であるということの証拠が現代の啓示の何処に見出されますか？
- (二)両親はその家族の成功に対し平等の責任がありますか？
- (三)家庭内に於て神権は親としての責任を増しますか？説明しなさい。

四)性格を真に審査するものは何でしょうか？

五)善良な市民を養成するのに家庭は如何に大切でありますか？

参照

教義と聖約 六十八章百二十一章百三十一章百三十二章

ウィット・ジョン・エイ

神権と教会制度 七章、八章、九章

ウィット・ジョン・エイ

ブリガムヤング説教集 十七章

第十八課 神権の機能と共同生活体

(一九六五年二月第四週の集りに)

目的 神権の機能を活動させることは人間の経験のすべてを含むことを指摘する。

神の御意の内には一時的なもの(俗世のこと)から霊的なものを或は霊的なものから一時的なものを区別するようなことはないのがあります。それは主に於て一つであるからであります。……

私たちは霊的なものを一時的なものと同様なくして或は又一時的なものを霊的なものと関係なくして語ることは出来ないのがあります。それらは不可分の給びついでるのであります。(プリガム・ヤング説教集、一三頁)

この故にわれ誠に汝らに告ぐ。われにかかわるすべては霊のことなり。われは何時たりとも、いまだ曾て俗世の事にかかわる律法を与えたることなし。如何なる人にも、人の子らにも、わが造りし汝らの先祖アダムにも与えたることなし。見よ、われはアダムに自ら自由意志を行うことを許したり。われは彼に誠命を与えしが、俗世にかかわる誠命を与えたることなし。わが誠命は霊に関わるものなればなり。わが誠命は肉体のものにも俗世のものにもあらず、また肉欲のものにも情欲のものにもあらず。(教義と聖約二九・三四、三五)

共同社会と言う用語はその関係している一団の人々の行為、利害経験の爲によく受入れられている名称であります。本課の主題は私たちが教会の教えを会員の日常生活に適用することを観察するように提案して居ります。私たちは組織内の会員のよく標準のとれた生

活をつくり出すのにその組織機能がどのような効果があるかを観察して見たいと思うのであります。

前述したように教会の組織の形体は神からもたらされたものであります。組織化すること及び組織の機能は完成に進んでいる人間の限界に服するものであります。

社会問題は継続している

末日聖徒イエス・キリスト教会の初期に在っては、会員たちは常に食物や住居などの生活との闘争に直面して居りました。開拓者たちはあらゆる苦しみを堪え忍んで遂に逆境の中に素晴らしい共同社会を建設したのであります。

今日末に私たちは物質的な生活にあえて居ります。又これに加えて重大な社会問題が増えて来て居ります。これらの問題の内多くは常に存在して来ました。けれども今日、新しいものも生じ新しいものも古いものも共に増加しているのであります。

イエス・キリストの福音の中に、その教え、組織、完成に表現された創造者の直接の影響に私たちは私たちの直面するすべての日常の問題を解決することを授けられるのであります。私たちは知っていることを私たちのすべての実生活に生かすべきであります。

実行の大切さ

今日の戦争恐怖時代にあつては個人的な戦闘技術に最善の努力が払われて居ります。例えば空輸部隊を見ますのに彼らは地上に於てその義務を遂行するに可能なすべての経験を与えられます。彼らは着陸することをあらゆる演習によって訓練されるのです。彼らは地上に於て成功的なパラシュート降下をする為に可能なあらゆる訓練を与えられます。最後に彼らは空中に上って、地上での訓練の効果

と価値をためず為に實際に飛行機から飛び降りるのであります。彼らは地上に安全に着陸する為にパラシュートを開くべき正確な瞬間にひもを引っぱらなければならないので、その行動を誤ることは出来ないのです。この例の大切なことは、世の中のすべての知識も彼らがその教えを実行することなくして、空輸部隊を安全に着陸させることは出来ないであります。彼はそのパラシュートを開く為にひもを引っぱらなければならないのであります。

私たちは実行しなければならぬのです。福音は私たちに実行することを要求するのであります。神の感化は常に私たちが日常生活の問題を解決する為に真理を発見し、学び、適用するように挑戦して居ります。ブリガム・ヤング大管長が指摘しているように人は霊的なことを現実的なことから切り離すことは出来ないのであります。私たちは福音の原則をすべての実生活に適用せねばならないのであります。

定員会の主な目的

神権定員会の主な目的の一つは、すべての定員会々員及び彼らの家族の物質的、知的、霊的福祉をはかることであります（一九六四年メルケゼデク神権手引き一九頁）これは総合的な目的で、よく進歩した人格の如何なる部分も無視されないものであります。けれどもこれを完成する為には神権活動は日曜の朝の勉強のクラス或は時々神権の仕事の割当て以上に及ばねばなりません。私たちの宗教は生活のすべてにわたっているのです。そして人類に共通ないろいろな問題を克服する為には常に私たちの努力を必要としているのであります。主は私たちが自身で出来ることに對して、何もしようとはしません。神の英知と知恵は私たちが正しくそれを求める時、私た

ちが判断をする時に私たちの心を啓発してくれるのであります。

よい環境をつくる

前述の目的を達成する為には、神権者たちは彼が住んでいる社会のふんいき及び環境をよくする為に関心を持たねばなりません。彼らのよい社会を発展させる、可能性に就て見て見ましょう。次の諸項目に就て検討して見ましょう。（一）道徳、（二）法律と秩序、（三）健康と衛生、（四）教育

教会が組織された処には神権が在ります。わずかな長老しか居ない場合もありますが或は又よく進歩したステーク部に於ては、多くのメルケゼデク及びアロン神権の定員会があります。わずかしか居ないとしても彼らが団結して主の援けを得る時には無限によい事を完成出来るのであります。（私たちは主が伝道を開始した頃は人として多くの場合単独であったことを覚えねばなりません。）神権者の団体が大きければ大きい程、彼らの社会環境に大きな感化を与えることが出来るのであります。

（一）道徳

ジェームス・イータルマツジ長老は、道徳のない宗教、愛のない信仰の告白、適当な責任のない教会の会員にとつてその日常の生活はやかましい鐘や騒がしいよう鉢と同じである、と言いました。（信仰箇条の研究四二九頁）

道徳は日常生活に実行する時に、正しく適切である時に高揚される。それは行為の正悪の原則を設定することである。（ウエプスター字典）真実の徳は正悪を認識して正を選ぶことであります。道徳は善悪が含まれている処で私たちがなす、すべての決定を含みます。正の意味はその団体の道徳水準によって定められま

す。教会として私たちは創造主御自身の定められた生命と救いの原則を啓示させて居ります。そして私たちは神の影響による啓示に従って定められた私たちの標準体系を持つて居りそれから私たちの道徳水準が発展して来たのであります。これはすべての会員に一樣に守るように期待される単一な高い水準であります。

教会の道徳水準は正直、善れあること、清廉、貞節その他すべての人間関係に於て、善い行い、高度な行儀作法をなすように奨励して居ります。

神権定員会の会員たちは彼ら自身の家族たちや、すべての会員に接触するに當つて、この道徳水準を維持し発展させる指導者でなければなりません。行為者に悪影響を与えるような不道徳行為はありません。人々の内には、特別な場合、だとか、現代の哲学、だとか言い訳して道徳水準から離れることを正当化しようとする者が居ります。如何なる言い訳もこじつけであつて人格を弱体化するものであります。神権定員会は教会の道徳標準を強化支持する主体であります。

(二)健康と衛生

すべての神権定員会は彼ら団体内の衛生と健康状態に注意すべきであります。市内に排水設備が進められてから伝染病が減少したことはそれを支持するよい証拠であります。汚染した水の供給は生命取り伝染病の根源であります。

科学は多くの病気の免疫性を備えました。その内には人によく知られたひどい不具もあります。最近アメリカ合衆国に於て小児麻痺に對しすべての人が免疫となるように真剣な努力が払われて居ります。神権定員会がこの運動に協力して会員及びその家族を励

まし交通機関を準備したりして百パーセント成功するようにすれば最上の模範となるでしょう。私たちの住む団体のすべての健康状態を改善する為にあらゆる努力を払うことが神権定員会の心すべきことであります。

(三)律法と秩序

肉親の安寧と財産の安全は、その団体会員の律法と秩序に対する態度にかかつています。他人の権利を尊重することは先づ家庭に於て学ぶことです。それから社会に於ける友情関係などが律法と秩序を重んずる態度を進歩させる重大な事項となるのであります。

定員会は各会員に律法と秩序を重んずるようにしむけるべきであります。多くの者が法廷に呼び出されることを嫌つて違法者を報告せずに居ます。彼らは、時間を取られることが非常に不便だとか言いますがその違法が直接彼らに影響するようになって始めて少しずつするようになりますが、普通にそれは手遅れとなるのです。

私たちの宗教の道徳の一部は正直に、律法と秩序を維持し遵守する責任を負うことであります。律法と秩序を維持することはすべての市民一人一人の責任であります。社会に於てそのような態度を持つことは、過失や犯罪に對する最も効果的な保険となるのであります。

(四)教育

末日聖徒イエス・キリスト教会は、その組織された当初から、その会員の子弟教育のみならず会員自身の教育に直接、積極的に活動して来ました。ウィット博士は次のように指摘して居ります。

。人間は動物以上の存在であります。人は神権を持ち、全心全霊を尽くしてのみその高い召しに応え、毎日の彼の知的精力を増進させれるのであります。(神権と教会制度五十七頁)

教会組織の内に豊かな教育計画があります。けれどもこれでは不十分であります。若しも人が神の如なることを望むならすべてのことを知らねばなりません。それは継続する任務であります。教会は学校を組織し、すべての科目を教えていろいろな部門に於て専門家を養成するように努めて居ります。人が靈的な方面と現実的な分野に於ける學問を修めるのに矛盾はありません。教育は靈的な進歩と併せて、失業、疾病、戦争、その他根本的な社会惡に對するより効果的な武器となるのであります。

定員会々員の知的進歩は、同時に靈的及び現実的な福祉を伴った指導力を必要とします。教会々員にとって最も必要なことはすべての人の行動をを神の律法の光に照らして見ることです。毎日のすべての行動が完成をめざすものでなければなりません。人を完成する創造者の計画は教会制度に現れた、神の御意の啓示の内に展開されて居ります。教会制度の根本的な機能は、人に不死不滅と永遠の生命とをもたらす。(モーセの著一・三九) ことであります。

人間關係の中に、神権者の組織された努力に注目する必要がある多くの分野があります。それらは犯罪防止の爲の建設的な青年活動計画の推進、知的健康の障害をなくするような環境の育成、孤兒、寡婦への大きな関心を示すこと、養老施設の強化、その他多くのことなどであります。

よく標準のとれた生活は定員会の活動を通して成功的な神権の機

能からもたらされます。

地上に於けるキリストの統治は天上に於けると同様に、人をしてその利己心、貧欲、憎惡を克服させ、食欲を制御し、心を鍛え、知識の探求に尽きることなき渴望を燃え立たせることによってその神性を呼び覚まされねばなりません。

考察の爲の考え

一、神の律法は靈的なことだけを参照しますか？

二、社会問題は教会組織(機関)の責任ですか

三、定員会会その会員の福祉に對する責任は社会生活の問題をも含みますか

四、眞の貞節(善行)のテストは何ですか

五、律法を遵守することはキリストの福音の一部ですか？

参照

教義と聖約 二十九章、五十八章

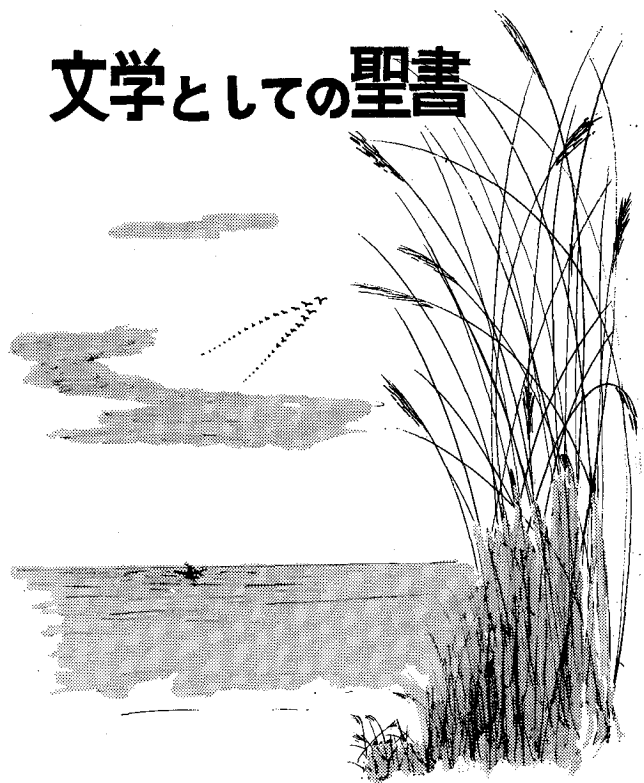
ウィット・ジョン・エイ

神権と教会制度 第五章

ジェームス・イー・タルマッジ

信仰箇条の研究 四二九頁

文学としての聖書



第5課 聖書にあらわれている散文体

扶助協会レッスン……………文学

1965年2月 第3回目の集りで

クラスの指導者は、このレッスンで聖書は単に文学として見られているだけであって、神学上の疑問を解こうとしている計画はすこしもないことをいつも念頭におかなくてはならない。

目的 聖書の中には、クラスの生徒たちが毎日読んでいるようなやさしい文体がたくさんにあることを生徒たちに解らせるように助けを与えること。

物語

キリストはそのみおしえの中で物語をたびたび有効に使っていらっしやいます。キリストはこのような方法で、その福音の中にある抽象的な考えと真理とを、聞く人たちにとってはっきりとした具体的なものになりました。ユダヤの律法学者が「となり人」ということばの意味をキリストにたずねた時、キリストはあの「よきサマリヤ人」という不朽の物語をしてその意味をはっきりなさいまし

た。またあの「山上の垂訓」の中では、二つの家（岩の上に建てられた家と砂の上に建てられた家）の話をして、伝えようとする真理を強く言いあらわされました。

聖書の中にある数々の物語は、いろいろな目的に使われると言えるでしょう。ルツやエステルやヨセフの物語は読んでおもしろいばかりでなく、はっきりした道徳の教えも得られます。

（アブラハムがその長男である）イサクを自ら進んでぎせいにしようとした物語は、服従という教訓を即座にいきいきと教えます。

聖書の中にあるいろいろな物語は、善か悪かに向って進む生活の道徳的価値を描写するために書かれています。これらの物語は、正しいか正しくないかが混乱して（わからなくなっている）事態の核心をついてそれを（直ちに）明らかにします。このような物語の中には「ある町にふたりの人があって、ひとりには富み、ひとりには貧

しかった」という言葉で始まっている。ナタンがダビデに語った話があり（サムエル記下十二〇一）、また「このことをヨタムに告げる者があったので、ヨタムは行ってゲリジムの山の頂きに立ち、大声に叫んで彼らに言った」という言葉で始まる、シケムの人々に与えたヨタムの話（士師記九〇七）もあります。物語は散乱している注意を一つとところに集め、そして具体的観念によって簡単な教訓をおしえます。また物語は生きることの中にあるいろいろな経験を示しています。

創世記はおとなにとってはもちろん、子供たちにとっても本当に話の本であります。創世記の始めの方にある章は、歴史の略図といったようなものであります。聖書の記事は全くの威厳の中に荘厳なところがあり、最初の条項を最初において筋の通った順序正しいやり方で始まっています。天地創造の物語は大交響楽が始まるように

展開して行きます。「はじめに神は天と地とを創造された。地は形なく、むなしく……」。創世記の始めの方の章は旧約聖書の序幕であって、選ばれた人々が召される前の世界の始めにおける重要な点を示しています。創世記は、宇宙が正しいつり合いのとれた発展であるという深い考えをあらわして居り、どの部分をとってみても神から出たものであります。「地は形なく、むなしく……」という簡単でしかも力強いことばづかいを見てごらん下さい。比喩的表現も豊かであって「やみが淵の面にあり、神の霊が水のおもてをおおっていた。……神は二つの光をつくり、大きい光に昼をつかさどらせ、小さい光に夜をつかさどらせ、また星を造られた。神はこれらを大空において地を照らさせ……」というような聖句があります。このような聖句には威厳があります。聖書には神が芸術家として描写されていて、創世記の第一章は

この芸術家（である神）が天地創造（という大創作）に燃え立っておられるさまをあらわしています。旧約聖書の（創世記）第一章はその主題が深い意味をもって居りその文体が人を感動させるものである、すばらしい文学であります。その中にしるされてあるいろいろな出来事が、人間の生活で経験される何ものよりも驚ろくべきものであるばかりでなく、その出来事が生き生きと美しく描写されています。創世記第二章にあるように、どの場面を生き生きと表している文章からも、はっきりした姿が容易に頭の中に浮びます。（創世記第二章を読むとき）人は川がその中を流れている楽しい園の有様を見ることが出来ます。

ある著者は（エデンの）園の物語と近代社会との間に似ている点のあることを見ています。エデンの園にも近代の社会にも、罪とその罰があることを示しています。聖書の中では、アダムとイヴが罪

を犯したことがみつかると思もなく二人に罰が与えられています。

罪の告白と罰とは劇的の事件の中で行なわれて居り、それがすばらしい物語になっています。二人がエデンの園から追われて行くところには悲哀の感があふれていきます。自分の家を永遠に離れて出て行かねばならぬようにされることほど悲しいことはありません。わたくしたちは、罪を心から悔いた（アダムとイヴの）二人が、住みなれた楽園を離れて、荒野へ新生活を求めて入って行った心情をおぼろげながら察することができま

す。

聖書の中にはこのような物語がいっぱいあります。カインとアベル、ノア（洪水のときの）ヨセフ、ダニエル、ルツ、エステル、ヨシアたちの悲しい経験は、大きな危機に際してあらわれないいろいろな性格を示しています。これらの物語は（読む人々を）楽しませ教えたまた生活を描写し、実践するまで

感動させ、教訓を授けるといふ、物語自身が目ざしているすべての目的にかなっているばかりでなく、その物語の多くはこれらの働きより以上のことをしています。

ルツの物語もエステルも共に文学的技巧の模範であって、そのふんい気といい、感情といいほとんど完璧であります。ルツの物語は、ユダヤの聖典の中で（ルツ記として）その神聖なものと価値のあることによって第三のグループの書に列せられています。そして「五旬節」のような或る神聖な時期をかぎり会堂の中で公衆を前にして読まれる五つの書の一つであります。ルツの物語はその源をエズラの時に発していると考えられています。その時代には異国の女を妻にすることについてきびしいおきてがありました。

この物語はダビデの先祖のことを述べているので価値がある上にまた身内の男（が死んだときその男）のやもめを妻にめとるといふ

昔の習慣も明らかにしています。

ルツの物語（ルツ記）の文学的構成を次のように七つの場面に大別することもできるでしょう。

(一) ユダヤにききんがあつて、エリメレクの家族は異教徒の国へ避難して行く。ふたりの男の子はそれぞれ結婚をする。後にエリメレクもふたりの男の子も死んでしまつて（エリメレクの妻のナオミは）夫と子どもに先立たれた。

(二) ナオミは先祖の地へ帰ろうとして支度をする。二人のよめのうち、一人（オルパ）はナオミにすすめられて実家へ帰ることにしたが、もう一人（ルツ）はどうしてもナオミを離れなかった。（このようにして二人はそれぞれちがった愛を示した）。ルツはナオミ（しゅうとめ）に誠実をつくす。二人は故郷に着く。

(三) 落穂拾いをする者となつたルツはボアズに逢い、その親切を受

ける。

(四) ナオミの家庭。ルツ、ボアズの畑だけで働らきなさいと言われる。

(五) ルツ、ナオミのすすめに従いボアズに会う。ボアズ親戚の義務をつくすことを受け入れる。

(六) 町の門のところで行なわれた面白い習慣。ボアズ、ルツを妻とする。

(七) ボアズの家庭。オベデを産んでナオミしあわせとなる。

この物語の構想は単純であつて、ユダヤの小さな町に居たふつうの人々の生活にあらわれる場面をえがいただけであります。しかし作者の巧みな手ぎわによつて、それらの場面が生きた意味の深いもの、劇的なものにさえなっています。とくにルツが（しゅうとめ）ナオミに献身を言明する場面、落穂拾いをする人々の光景、ボアズとその畑で落穂拾いをする人々との健全な関係、麦うち場で起つた因しゅうにとらわれない出

來事をとりあつかつているこまかい心づかいなどは、いちじるしく意味の深いものであります。

この物語には何ら不可能な場面も、言うに言われないような情緒も、作者がつくり出した人物も、病的な感傷もありません。あるものはみな單純で自然なものばかりであります。この物語は昔を今に戻して、昔の求婚やそのほかの習慣を（わたくしたちの目の前に）あらわしています。わたくしたちは（この物語によって）士師（しし）の時代のユダヤの生活がわかります。この事実を知ると、またわたくしたちの知識が豊かになるというものです。ルツ記は（文学的価値があると）同じように感情に訴える価値と倫理上の価値とがあります。この物語は読む人の心を美しいもの、善いものにひきつけるほど生活の中にある道徳の力をあらわしています。ルツ記のような書物は不朽の書であつて「時がたつほどそのみりよくの増して

行く」書物であります。

これまで、聖書にあらわれているいろいろな散文体の中から一つを選んで論じましたが、これは（今は余白がないので充分に論ずることはできませんが）無数にあるほかの物語だけでなく、ほかの文体もまた文学上の興味と価値があることを示しています。

評論

聖書の中には近代の評論とよく似た部分がたくさんあります。それらの部分には、あるときは固く、あるときは気がるに、いろいろな話題で評論がしてあつて、その論じている主題について読者に知識を与えているばかりでなく、筆者の興味や趣味についても面白い事実を明らかにしています。

「伝道の書」を見ると両親を尊ぶこと、柔和であること、お世かけいをしないこと、誇りをもち、賢女と悪女、子供をこらしめること、知識の追求、老年、富、

友情などのような多種多様の問題について評論がしてあります。次にその中から二つ三つ抜いて示しますが、これによって評論体についていくらかおわかりでしょう。

最初は「伝道の書」第三章一—八の引用、次はおなじく第七章一—六の引用であります。

「天（あめ）が下のすべての事には季節があり、すべてのわざには時がある。生るるに時があり、死ぬるに時があり、植えるに時があり、植えたものを抜くに時があり、殺すに時があり、いやすに時があり、こわすに時があり、建てるに時があり、泣くに時があり、笑うに時があり、悲しむに時があり、おどるに時があり、石をなげるに時があり、石を集めるに時があり、抱くに時があり、抱くことをやめるに時があり、さがすに時があり、失なうに時があり、保つに時があり、すてるに時があり、裂くに時があり、縫うに時があり、だまらるに時があり、語るに時があり、愛するに時があり、にくむに時があり、戦うに時があり、和らぐに時がある」。

「良き名は良き油にまさり、死ぬる日は生るる日にまさる。悲しみの家に入るの、宴会の家に入るのにまさる。死はすべての人のおわりだからである。生きている者はこれを心にとめる。悲しみはわらいにまさる。顔にうれしいをもつことによって心はよくなるからである。賢い者の心は悲しみの家であり、おろかな者の心は楽しみの家にある。賢い者の戒しめを聞くのはおろかな者の歌をきくのにまさる。おろかな者の笑いは、かまの下にもえるいばらの音のようである。これもまた空である」。

力強いことばづかい、つりあいのとれた文章、いちじるしい対照効果のある比喩的表現などが、人生にあらわれるすべての面に関する問題をとりあつていて、これらの評論に興味をそえています。聖書の中には、物語や評論のほ

かに演説、手紙、説教などを内容とする興味のある散文体がほかにも多くありますが、前にも言った通り、全体から見ると聖書は「選ばれた民」すなわちイスラエル民族の自叙伝であります。

レッスンの助け

(一)力強いことば使い、力強く心地のよい文の構成、比喩的表現などを「サムエルの誕生」(サムエル記上、一〇二―十一)および「黄金の子牛」(出エジプト記三十二章)のような物語から例をとって説明し、聖書の散文がすぐれたものであることを示さない。

(二)聖書の中から評論と同じ部分を一つ二つ選び出してこれを読んでもらいなさい。

(33 ページより)

で、私たちは家財道具などは皆、間に合わせものを使っていたのであります。私はその当時、妻が清潔なけれども原始的な家財の環境に在って、何ら気にすることもなく、女王のような気品を以て多くの知名のお客さんたちをもてなしていたことを昨日のように懐しく思い出します。彼らがアメリカ人であろうと、ヨーロッパ人であろうと、アジャヤ人であろうと、我が家の主婦は同様に取扱ったのであります。私たちはその心で結び合ったのであります。

扶助協会を通じて姉妹たちは質素でよく物を生かして用い、生産的であるように、その持てる範囲で幸福な生活を築き上げるように教えられて居ります。このようなことを先ず考慮する時に幸福は洪水となって家庭に流れ込んで来るのであります。

(35 ページより)

と説きすすめ、またキリストを信ぜず、これを否定し、神に事えるなど説きすすめるものは何でもみな悪魔から出たと言ひことは、何の疑いもなく充分確に知ることができる。

(モロナイ七・一六、一七)

ブリガム・ヤング大管長は私たちが如何にして悪に打克つかに就て言いました。

貴方に誘惑が来た時は、へりくだって信仰を以てそれを克服するように決心しなさい。そうすれば貴方はその誘惑から解放されるでしょう。(ブリガム・ヤング説教集八二頁) 大予言者、アルマも次のように教えて居ります。主の御前にへりくだり、その聖い御名を呼び、自分に堪えられない誘惑に逢わないようにたえず目を覚して祈り。(アルマ書一三・二八)

主とその僕たちの警告に注意し、敵がその支配力を拡大しようとする。ことに備えようではありませんか？

神 権

旭川
ワタナベ ケンイチ (執)
広島
ミヤハラ ジョウジ (執)
オガワ タダユキ (執)
オオキタ ノブアキ (執)
ヤマテ ミノル (執)
金沢
サイトウ アキラ (執)
ノムラ トモチカ (執)
コバヤシ ヒサオ (執)
群馬
イマイ マサオ (執)
サイトウ マサル (執)
甲府
ハギハラ コウイチ (執)
タケノ カズマ (執)

西宮

イマオカ ヨウスケ (執)
松本
ハラ マサクニ (執)
ハヤシ ヨシヒコ (執)
ヒラバヤシ サダオ (執)
ジントク タカハル (執)
カミヤマ ヒデオ (執)
モリ ヒロシ (執)
ナガオカ ヒロシ (執)
名古屋
ハセガワ ヨシノブ (執)
ヒサカ キヨシ (執)
ノグチ トモヒサ (執)
岡町
ヤマダ トミイチロウ (祭)
札幌
カワヒト アツヨシ (執)
オカダ ノリヒロ (執)

東京中央

ホンダ イエサク (執)
ツルサキ スミト (執)
東京北
ツジタ ユキオ (執)
セキモト クニトシ (執)
フジモト マサアキ (執)
ヒライシ カズオ (執)
シマザキ ヤスヒロ (執)
東京南
ハラ シゲル (執)
ハヤシ ユズル (執)
マエダ ソウロク (祭)
モリ ジュウザブロウ (執)
ミズノ ケイ (祭)
ナガセ ヨシアキ (祭)
セキグチ カツユキ (祭)
ワタナベ マサヒロ (執)
東京西
ドイ クニアキ (祭)

コバヤシ モリヒサ (執)

セガワ ユキオ (執)

スズキ ヒトシ (執)

トウゴウ スミノリ (祭)

オクノ ヨシヤ (執)

キシノ ヒロシ (執)

誕生と祝福

ヒラバヤシ ヨシアキ (室蘭)

クサカ カズヤ (柳井)

His eyes how they twinkled!, his dimples how merry.
His cheeks were like roses, his nose like a cherry;
His droll little mouth was drawn up like a bow,
And the beard on his chin was as white as the snow.
The stump of a pipe he held tight in his teeth,
And the smoke it encircled his head like a wreath.
He had a broad face and a little round belly,
That shook when he laughed like a bowl full of jelly.
He was chubby and plump,—a right jolly old elf,
And I laughed when I saw him, in spite of myself.
A wink of his eye, and a twist of his head,
Soon gave me to know I had nothing to dread.
He spoke not a word but went straight to his work,
And filled all the stockings; then turned with a jerk.
And laying his finger aside of his nose,
And giving a nod, up the chimney he rose.
He sprang to his sleigh, to his team gave a whistle,
And away they all flew like the down of a thistle;
But I heard him exclaim, ere he drove out of sight,
"Happy Christmas to all, and to all a good night!"

Clement Clarke Moore

ENGLISH PLAN FOR DECEMBER

To the Missionaries:

The lesson plan to be used for the first two weeks is similar to those used previously and the instructions are also similar. However, the reading material for the last half of the month is quite different—it's a poem! This poem will provide a real opportunity for different methods of presentation. It's a difficult poem to translate but it should offer a challenge to any class level...it will require preparation to use it effectively—*start now!*

A VISIT FROM ST. NICHOLAS

'Twas the night before Christmas, when all through the house,
Not a creature was stirring, not even a mouse;
The stockings were hung by the chimney with care,
In hopes that St. Nicholas soon would be there.
The children were nestled all snug in their beds,
While visions of sugar plums danced in their heads;
And mamma in her kerchief, and I in my cap,
Had just settled our brains for a long winter nap—
When out on the lawn there arose such a clatter,
I sprang from my bed too see what was the matter,
Away to the window I flew like a flash,
Tore open the shutters and threw up the sash.
The moon, on the breast of the new-fallen snow,
Gave a lustre of midday to objects below;
When what to my wondering eyes should appear,
But a miniature sleigh and eight tiny reindeer,
With a little old driver, so lively and quick,
I knew in a moment it must be St. Nick.
More rapid than eagles his coursers they came,
And he whistled, and shouted, and called them by name:
"Now, Dasher! now, Dancer! now, Prancer and Vixen!
On, Comet! on, Cupid! on, Donner and Blitzen!
To the top of the porch, to the top of the wall!
Now dash away, dash away, dash away all!"
As dry leaves that before the wild hurricane fly,
When they meet with an obstacle mount to the sky,
So up to the house-top the coursers they flew,
With sleigh full of toys and St. Nicholas too.
And then in a twinkling I heard on the roof,
The prancing and pawing of each little hoof.
As I drew in my head, and was turning around,
Down the chimney St. Nicholas came with a bound.
He was dressed all in fur from his head to his foot.
And his clothes were all tarnished with ashes and soot;
A bundle of toys he had flung on his back.
And he looked like a peddler just opening his pack.

図 書 案 内

教義と聖約 高価なる真珠 モルモン経	上質革製合本	1100円
教義と聖約 高価なる真珠	合本	300円
モルモン経 (新訳)		300円
信仰箇条の研究		330円
モルモンとは? (新版)		150円
総合聖句の手引		150円
日本系図探究要覧		100円
アロン神権者用学科課程		150円
メルケゼデク神権、教師と生徒用 「モルモン経の読み方の手引」		200円
ナザレのイエス		100円
正しい日本史		100円
家督権の祝福		100円
料理の作り方		50円
求道者教育法		120円
神の王国		230円
基督・イエス		300円

日曜学校用

モルモン経物語	150円
旧約聖書物語	150円
家族の昇栄	200円
福音の実践	200円
奇しきみわざ(上)(下)	200円
我等の標準聖典	200円
古代の使徒	150円
シオン山の救い手たち	200円
教義と聖約の教え	200円

M I A 用

我ら指導者のことば	200円
我らは生きる	200円
我らは奉仕する (1965年度テキスト)	150円
生活の目標	150円
今日の十誡 (1965年度テキスト)	250円
M I A・エンサイン・ローレルの手引	150円
演説が上手になる法	150円
素晴しき考え	200円

讃美歌及び歌集

末日聖徒讃美歌 (新版)	400円
レクリエーション歌集	400円

……注文は各支部長へ……

THE SEITO NO MICHU

Volume 9, January 1965, Number 1

THE CHURCH OF JESUS CHRIST OF LATTER-DAY SAINTS NORTHERN FAR EAST MISSION

TEL (473) 1613. 14 Azabuhiroro-cho Minato-ku Tokyo Japan

支 部 所 在 地

北海道地方部	旭川市八条五丁目 MIA集會場 旭川公會堂 電話(二一五四五)
室蘭	室蘭市幸町八九 電話(七〇五四)
小樽	小樽市富岡町一ノ三五 電話(二八二二四)
札幌	札幌市北二条西二丁目 電話(六三二七八六六)
東中央地方部	高崎市並榎町二七五 甲府市山田町六三 松本市幸町三八四 百瀬方 新潟市中大畑町五五七 電話(二一八六六〇)
仙台	仙台市光禪寺通り二八 電話(二五〇八九七)
東京中央	東京都港区青山北町六ノ三四 電話(四〇八三三〇七)
東京北	東京都中野区江原町一ノ八ノ十四 電話(九五二)一五三一
東京東	東京都江戸川区小岩町六一七八〇 電話(六五七一五二三)
東京南	東京都大田区南千束町二四九 電話(七二九一六三一)
東京西	東京都武蔵野市吉祥寺東町一ノ七 電話(二一六七六四)

山形	山形市七日町二丁目十二ノ二十三 横浜市港北区篠原町二九 電話(四九一八七七二)
西中央地方部	大阪市阿倍野区阪南町中一ノ三八 電話(六二一八三三七)
阿倍野	福岡市浄水町四六 福岡市古田町古江四〇〇ノ三 電話(三一六一三五)
福岡	金沢市上胡桃町一 京都市左京区下鴨松原町四四 名古屋市中昭和区北山町三ノ四一 電話(七三二四二一〇)
京都	兵庫県西ノ宮市仁川町四ノ五四 電話(五一〇一四一)
名古屋	大阪府豊中市岡町北二ノ一八 電話(二二二三六)
岡	岡山市北方七〇
岡	神戸市灘区篠原本町四ノ三五 電話(八六一二六二)
三ノ宮	山口県柳井市今市三九一 長崎県佐世保市山手町 TAIKEI HOUSE CO., LTD.
柳井	沖繩那覇市野嵩区三三八 沖繩那覇市松尾区一三九 東京都港区青山北町六ノ三四 電話(四〇二一四〇一〇)
佐世保	沖繩那覇市野嵩区三三八 沖繩那覇市松尾区一三九 東京都港区青山北町六ノ三四 電話(四〇二一四〇一〇)
沖繩地方部	沖繩那覇市野嵩区三三八 沖繩那覇市松尾区一三九 東京都港区青山北町六ノ三四 電話(四〇二一四〇一〇)
普天間	沖繩那覇市野嵩区三三八 沖繩那覇市松尾区一三九 東京都港区青山北町六ノ三四 電話(四〇二一四〇一〇)
那覇	沖繩那覇市野嵩区三三八 沖繩那覇市松尾区一三九 東京都港区青山北町六ノ三四 電話(四〇二一四〇一〇)
建築部事務所	沖繩那覇市野嵩区三三八 沖繩那覇市松尾区一三九 東京都港区青山北町六ノ三四 電話(四〇二一四〇一〇)

聖 徒 の 道

1965年1月1日発行

振替口座 東京 16226 番

発行人兼編集人 ダウエン・N・アンダーセン

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会北部極東伝道部

東京都港区麻布広尾町 14 (473) 1613

印刷所 合名会社 三五堂